京城日報

十五日夕刊

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金六拾錢（郵稅共）
廣告料 一行金[illegible]
發行兼編輯人 奥田直毅　印刷人 松口政太郎
發行所 京城太平通一丁目 京城日報社

○即位日二月九日と裁可

大典籌備所より即位日決定を請へるに對し袁總統は二月九日夜を以て吉日なりとし之を裁可せり（北京電報）

○首相遭難と支那

大隈首相遭難に就き支那官民は勿論在留歐米人も其原因に就き疑問を懐き居れるが特に支那は特使派遣を眼前に控へ居れる事とて一層注意し居れり（北京特電）

○犯人逮捕見込

大隈首相に爆彈を投じたる犯人は帝政派の支那人に頼まれたる邦人らしく逮捕の見込付きたりと（東京電報）

○對支問題閣議

十五日閣議を開き對支問題に關し臨機の策を決定す可しと（東京電報）

○渡日支那商工團

支那商工團十四日夜天津より乘船したり十九日海路門司著の旨當地或筋へ通知ありたり（門司特電）

○吉林日支裁判長官

日支新協約に基く訴訟事件を取扱はしむる目的を以て吉林地方裁判所に專任裁判官を任命する事となり裁判官人選中の所今回四川省出身の謝正權氏を日華裁判長官に任命し既に十日を以て著任せり謝判官は日本に留學し帝國大學經濟科卒業生にて日本語に精通せる人物なりと（長春電報）

○吉林捕虜收容

露國にて多數の敵國捕虜の中昨年來逃走者續々ありて吉林省内に逃げ込み來り各縣にて逮捕せしもの既に約三十餘名に達し收容上甚だ困難を極め居りしが今回右全部を吉林に收容する事となり省城新開門外元省議會を收容所とし去る九日既に數名の捕虜到著し引續き全部護送し來る筈なりと尙ほ同所の役員は所長金海亭、督辦傅交涉署長、會辦熊財政廳長、辦事趙警察廳長等にして此外通譯書記等の十餘名なりと（長春特電）

○臺銀滿銀頭取

專賣局長を辭したる櫻井鐵太郎氏は臺灣銀行頭取となり柳生現臺灣銀行頭取は新に設立せられんとする滿蒙銀行頭取となるべしとの說あり（東京特電）

歐洲大戰亂

▲獨帝病狀一層重態

カイゼルの病狀其後一層重態となれる者の如し（巴里特電）

▲獨墺軍の進擊開始か

ガリポリ半島を引揚げたる英佛軍は續々サロニカに到著しつゝあり今後一週間にして聯合軍の總兵數三十萬に達す可く目下獨墺軍は五十萬の兵數を有し既にドイランを中心として砲擊起りたるが是れ獨墺軍が進擊開始の前提ならずやと察せらる（紐育電報）

▲佛軍のコルフ島占領

雅典來電に曰く佛軍はコルフ島に上陸し同島を一時的占領を爲せり十四隻の艦船は同島の周圍を巡航しつゝあり（倫敦電報）

○又復露國の大注文

露國政府より又復軍需品の大注文來り右に關し來る十七日各省次官の會議を見るに至らん（東京電報）

○支廠設置調査

大阪砲兵工廠支廠設置の急ありとし其地點に關し福山、岡山及び廣島の三箇所を調査する所ありたり（大阪電報）

○露太公の鴨獵

露國太公ミハエロウヰッチ殿下は十五日午前濱離宮に於て催されたる鴨獵を御見物いたく打興せられ芝離宮に於て鴨料理を召されたり（東京電報）

○日露協會臨場

十五日露太公殿下には濱離宮に於ける鴨獵に臨ませられ芝離宮に於ける午餐會後本郷森川町なる前田侯爵邸に於ける日露協會の晩餐會に臨場せらる（東京電報）

雜報

◉白狼活躍せん　尙は未だ死せず

前年北京政府より派遣の討伐隊員の手に由りて殺されたりと傳へられたる白狼は今猶ほ現に健全にして河南省に在り曩に死せりと發表せるは最初の白狼に非ず全く政府を瞞著せるものにして其後密かに時機の到來するを俟て大擧を計らんとしつゝありたる折しも今回雲南の獨立せる報を聞き數萬の部下を招集して旗擧の準備を急ぎつゝあり尙河南省信陽確山等の地方には天然痘の如き疫病猖獗を極め居り土民の恐慌一方ならず更に汝寧府鶴處等の地方に於ては土匪の革命黨と連結して期の至るを待ち大擧を圖る計畫整ひ居れりとの噂專らにて今府に意外の禍機を醸さんとするの現狀にありと（北京）

◉合辦天寶山銀鑛

既電の濟名前都督府陸軍部主計監を中心とせる南滿洲大興合名會社は昨冬成立本社を東京麹町區有樂町に支社を奉天小西關に置けり同社は濟名氏及び東京飯田延太郎氏の合名組織にて飯田氏は社長濟名氏は業務擔當社員にて前代議士井深彦三郎氏は理事長兼農場部長として日々奉天支社に勤務しつゝあり同社事業は目下の處農場及び鑛山の經營に在りて農場は遼中縣太平寺所領の廣大なる農園を買收（目下日支間の問題となれる者）し

▲鑛山は彼の有名なる天寶山銀鑛の採掘に在りて舊臘支那政府より日支合辦組織の認可を得たる者なり該鑛山は安東縣の中野氏等が多年之に關係して終に其權利の獲得に成功せざりし名なるが古來有名の銀山にて今日殘留せる採冶の殘滓にても猶四五十萬圓の價値ありと云ふ程なれば其鑛脈の豐富なるは勿論附近に燃料の石炭も乏しからざれば其

▲前途は太だ有望なりと謂ふ可し[illegible]濟名氏が該鑛區の所有權を獲得したるは意外の成功と謂ふ可しと協同し日支合辦を以て其採掘權を[illegible]濟名氏は舊臘二十七日頃東京本社に歸りたるが一月中旬頃天寶山に赴きて種々調査を遂げ技師及び機械購[illegible]に著手する筈にて鑛區の[illegible]は目下東京本社に於て[illegible]なり又同社は之れを他に運搬せず同地に溶鑛爐を設けて製鍊する由されば差當つて多額の資本を要するなる可しと（奉天）

◉總督歸任期

御來朝中の露國太公殿下には二十九日京都御出發御歸國の途に就かせらるゝ御豫定なるが歸路を朝鮮又は大連に取らるゝや、或は敦賀を經て浦鹽に直航せらるゝや猶未定なりされど多分敦賀より御歸國の事に決せらるべき模様にして果して斯く決せば接伴員たる總督一行も敦賀迄奉送すべきを以て總督の歸任は二月十日前後となるべしと

◉支那特使先發

支那特派大使周自齊氏の來朝期は未だ確定せざるも支那農商部参事張新吾氏外鑛山局長、農商局長及び技師等五名は大使の渡日を豫として產業視察の爲め其先發として朝鮮經由日本に赴くこととなれり一行は十四日夜北京發の豫定なれば十七八日頃南大門驛入京す可く京城一泊の筈なる旨日置公使より其筋に通報ありたり

◉初年兵檢閲

第九師團吉富參謀は來る十七日より十日間に亘り咸興、元山守備隊の初年兵檢閲を施行す可しと

◉鮮鐵驛長會議

既報の如く驛長會議は十五日午前十時より南大門驛に於て開會鐵道局三本營業課長を始め横井汽東課長安藤参事等出席事務打合せありたる後正午散會せり

◉仁川商議認可

仁川商業會議所設立認可方に關し過般來和田書記長が上京し當局と種々打合はす處ありたるが愈々十五日認可ありたり

△評議員選擧　新定款既に認可ありたるを以て來る二十四日午前十時より午後四時迄の間に於て內鮮人評議員の選擧を執行する事に決定せるが評議員定數は三十名にして內地人二十三名鮮人七名を內鮮各別に選擧する筈なるが評議員の割合は會員數に因るものなりと

△名簿閲覽期　來る二十四日評議員の選擧を執行するに就き十六日より十八日迄三日間同所に於て午前十時より午後四時迄選擧名簿の縱覽を許すべし因に該名簿は選擧期日前一日即ち二十三日を以て確定するものなり

△舊議員總會　仁川商業會議所にては來十八日舊議員の總會を開催し大正四年度歲入出決算報告をなし終つて新會議所設立準備委員を選定し引續き選擧に關する協議會を開くべし

◉仁川倉庫組合計畫

仁川穀物商間には豫てより各自共同の穀物倉庫設備の必要を感じ居る者ありしが今回元水產會社魚市場を買收し之を倉庫に充てんとの議起り十三日仁川穀物協會に於て有志會合し大多數の贊成にて直ちに實行に著手する事に議決したるが聞く所によれば該魚市場は仁川港築港埋立工事の爲め不日他に取り拂はるべき運命に在るを以て買收後直ちに稅關敷地一部の貸與を受けて倉庫に改造する豫定にて差當り各有志の合資組織となし一口五十圓位とし一百口總額五千圓の豫定なりと

◉露貨換算率

日滿連絡貨物引換代金換算率中朝鮮鐵道局線著の場合は一月十一日以降當分の內露貨百留に付日貨六十一圓二十錢と改正同日より實施せり

◉立花總長招宴

立花警務總長は來る廿日午後六時半南山町料亭千代本に朝鮮貴族、李王職、鮮銀、東拓の重なる者約六十名を招待すべく陪賓として憲兵隊警察署側の主腦者出席す可しと

▲夫人園招待　立花警務總長は十七日零時半京城ホテルに在京城憲兵並に警察官高等官夫人約五十人を招待す可し

◉高橋軍醫部長巡視

第九師團軍醫部長一等軍醫正高橋瑞彦氏は來る十七日より約一週間の豫定に

◉鐵道敎習生募集

朝鮮鐵道局にては明治四十三年十一月朝鮮總督府令第六十一號に依る敎習生規程に依り[illegible]十五名[illegible]十二名計廿七名を募集する旨を以て今十五日附を以て發表せり志願者は來る二月五日迄に願書を提出すべしと而して入學試驗は二月十一日午前九時より從事員養成所に於て施行すと

人事消息

▲岡本文氏（京城覆審法院判事）十五日朝東上
▲櫻庭技師（京畿道土木局）土木事業監督の爲[illegible]
▲靜田事務官（土木局）水利事業に關する調査の爲め十八日より忠清南北道に向ふ
▲横井技師（土木局）殷栗の砂壤及び鎭南浦築港工事打合せの爲十八日元山へ出張
▲萩田通譯官（外事課）二十日赴任の筈
▲金田準助氏（憲兵中尉）十四日午後五時二十分南大門驛列車にて家族同伴元山より入京
▲靜井芳氏（新義州駐在支那領事）十五日午前九時十分南大門驛列車にて歸任
▲永田一學生[illegible]十五日朝南大門發列車にて元山へ
▲英國領事 同上永原へ
▲西原龜三氏（朝鮮銀行）十六日朝出發歸東の筈

南言北語

獨逸軍が未だサロニカを攻擊せぬに先じてメソポタミヤの英軍の[illegible]が成功し相な▲露軍は破竹の勢でマツケンゼン軍を擊破して羅馬尼方面に突っ込んでブコヴイナも占領したらしい▲此方面でトン〳〵拍子に進むと羅馬尼の態度も決って仕舞ふのだ何の外交も議論もヘチマもあつたものか斯る場合には强く鐵拳に限る▲獨逸の各方面に强いのも畢竟に[illegible]する鐵拳が堅いからだサア〳〵日本も鐵拳をしつかり固めて居らぬと[illegible]降が益々物騷千萬になつて來たぞ▲三道溝[illegible]進むとは何だか[illegible]と聞えるが三道溝戰で[illegible]討伐軍は何うも振はぬ▲吳軍[illegible]の率ゆる一隊は最う龍場で遭遇戰をやつて四百の戰死者と六百の負傷者を出し叙州に退却したさうだ▲而して叙州も亦革命軍の手に落ちた相なが一聯隊死傷者一千名を出す位の戰爭だつたらかなりの大戰であつたに相違ない▲兎も角討伐軍は出鼻を見事にへし折られたがそれでは何うも纏まりが良くない▲其れにも不拘北京政府では袁總統の即位式を行ふ決心が却々固いらしい▲其の期日は日本特派大使周自齊が使命を全うして北京に歸つた時だとは少々痛み入る次第である▲使命を全うするなんて何んな使命か知らぬがチト虫の善過る話では御坐らぬか▲一體全體擾亂なしと聲明した責任は何うなさる▲本來ならば今日の如くになつた以上は直に帝政を抛棄して其不明を五國に謝するのが當然では御坐らぬか▲其れは扨て置き帝政宣布の時期を發表して日本の意嚮を探りに來るのみか泣き付きに來るなんて誰が考へても人を馬鹿にした話だ▲ソレ〳〵其の様な事をするから五國から又た猜が飛び込むよ十二日來東京で英佛大使等が石井外相と膝突き合せの談合を御存じないかね

大正五年 國民年鑑

千頁の大冊定價五拾錢

三度の飯は二度にて可也と論ずる者あれど國民年鑑の不必要を唱ふる者の日本國民中唯一人も有らざる可し

國民年鑑目次

◉大禮記　▲大禮前記、大禮の準備、齋田點定の儀、大禮延期、大禮使と大禮役、諸儀式御日取と大禮擧行地、期日奉告、齋田點定の儀　▲大禮本儀、賢所移御の儀、東京、京都　▲即位大禮、皇靈殿神殿へ奉告の儀、紫宸殿の御儀、賢所御神樂の儀、御禊大祓の儀、神宮皇靈殿並に官國幣社に勅使發遣の儀、大嘗祭前一日鎭魂の儀、賢所御饌供進の儀、皇靈殿神殿に奉幣の儀、神宮奉幣の儀　▲大嘗祭本儀、悠紀殿供饌の儀、主基殿供饌の儀　▲大禮後儀、大嘗祭後一日鎭祭の儀、大禮後大饗宴の儀、大饗第二日の儀、大禮後大饗夜宴の儀、神宮親謁の儀、神武天皇山陵親謁の儀、前帝四代の山陵親謁の儀、東京に還幸の儀、賢所温明殿に還御の儀、大禮雜記、恩赦、贈位、叙位叙勳、養老賑恤、神社昇格、文部省大典奉祝唱歌、記念事業、各地方賜餞、東京市の奉祝、京都市の奉祝、大阪市の奉祝、授爵、觀兵式及觀艦式

◉一般事項　皇室、領土及土地、氣象、人口、政治、外交、軍事、財政及金融、農業、牧畜業、林業、漁業、鑛業、工業、電氣及瓦斯業、商業、外國貿易、交通、鐵道、海運、通信、宗敎、敎育、表彰、圖書館及出版物、衞生、慈善、司法警察、美術、文藝、演藝、歌舞音曲、相撲、運動遊戯、大正四年一月以降の重要事件、東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市、名古屋市、北海道、朝鮮、臺灣、關東州、滿洲、樺太、在米日本人の發展、英吉利、濠洲聯邦、佛蘭西、獨逸、露西亞、墺地利洪牙利、伊太利、北米合衆國、支那、過去帳

◉現代人物一覽　日本の部、朝鮮の部、支那の部、歐米の部

◉銀行會社一覽　大正五年略曆、年曆、年齡早見表、滿年算月表

本書索引の一節

◉位置（日本）◉市場◉醫學聯合大會◉醫師◉伊太利▲土地の利用▲陸軍▲離婚率▲王室▲王室費▲海運▲海軍▲外國貿易▲家畜▲內閣▲軍艦▲軍港及要港▲富力▲財政▲砂糖▲議會▲敎育▲漁業▲面積▲人口▲宗敎▲祝祭日▲生產及死亡◉國幣◉英吉利▲土地の利用▲領土▲陸軍▲離婚率▲海運▲海軍▲外國貿易▲家畜▲內閣▲農業▲軍艦▲軍港及要港▲富力▲物價▲鑛業▲皇室▲皇室費▲鐵▲財政▲產業▲議會▲敎育▲漁業▲面積▲宗敎▲祝祭日▲人口▲製造業▲生產及死亡▲石炭▲船舶◉移民◉意匠登錄◉印度◉印紙稅◉飲食店

大取次所　京城太平町一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報社代理部

今朝の雪

●ウ伯が垂涎した銀山 邦人發掘權を得―東間島の開發

去る明治四十年來の問題であつた東間島の銀銅鑛山天寶山は這回愈よ日支合辦を以て濟名某氏の經營する事となつたやうである經營者は本月中旬頃諸般の準備を整へて

▲大規模の採掘に着手するといふことであるから將來非常な大事業となるであらう、又間島に通ずる交通路は目下建設中の清會鐵道線（咸鏡北道清津港から國境會寧に至る五十餘哩間）が竣成した上は非常な便利となり從つて此の方面の開拓も容易となるであらうから天寶山の將來は極めて有望であると思はれる元來

▲此の天寶山は 支那でも昔しから有名な鑛山であつたが殊に日本人の注目を惹いたのは明治四十年十一月の騷動以來の事である其の原因といふのは彼の支那浪人の中野二郎氏が未だ間島に露西亞兵の駐屯して居た頃

▲間島探險隊を 組織して此の山を發見し後ち延吉廳の支那兵に包圍された事件であるが鑛山は其れ以來支那官憲から閉鎖を命せられ中野氏等は今日まで空手封禁のまゝ對時して居たのである、當時は又此所から出る鑛滓を淸津港まで搬出して同地から汽船で內地に輸送せんとして中途で支那官憲の爲めに

▲差押へられた 事もあつたが這回芽出度く事業に着手したとは何より結構な事である、天寶山は會寧から圖們江を渡つて間島の龍井村に出で其處から海蘭河の支流なる布爾哈通河を遡つて吉林街道を行くと銅佛寺といふ處から

▲約三里半許り 西北方にある、昔しは光緒十五年頃から採掘を始め爾來同廿八年に至るまで十四年間採鑛しつゝあつたがたう〳〵收支償はずして事業を中止したのである今でも當時の精錬所や事務所などが遺つて居るが以前は鑛夫三百人溶解工夫二百人を使用して居つた支那人は主として

▲含銀分の多き 鑛石のみを採つたものであるが銅の含有量も尠くない、現に鑛滓の分析を見てもなか〳〵有望な鑛山である、昨年十月頃我が農商務技師西和田久學氏も同地の調査に行つたのであるが鑛內は所々崩壞して居るといふことである嘗て露西亞の

▲ウヰッテ伯が 大藏大臣であつた當時も滿洲の產業調查出張に天寶山の事を詳細調査し垂涎したものである（某間島通談）

●朝鮮不良少年團 檢擧さる 西大門外に穴居 山窩に彷彿たり

京城は朝鮮に於ける首都なる爲め朝鮮各地より集まり來る無賴漢或は鮮人不良少年等の群れの如きものありて是等內鮮人居宅を荒し廻りたる例尠からず、殊に其手段方法等頗る侮るべからざるものあり盜難被害頻々として絕えざるより京城本町署にては數名の刑事大に期する所あり此禍害を一掃せんと豫て注意を怠らざりし所右は頗ひ稀なる鮮人惡少年團體の結束的行爲なることを突止め一昨に檢擧することを得たり其主魁は全南唐津郡生住所不定の李鍚順（十六）及び京畿義州通二丁目生まれ尹淑香（十七）仁川松林洞生れの鄭一得（十七）等にして此奴等は窃盜前科一犯乃至二犯の曲者にて何れも西大門監獄或は仁川分監等にて服役したることあり其の他市內を徘徊する不良鮮童を傾見に驅り蒐め住家なき西大門外の畑中に穴を穿ちて穴居し內地の山窩と同樣の方法にて手分して市內を徘徊し手に正五寸位の洋釘二本を持ちて各戸を覗き廻り家人不在なれば戸障子の下部に差し込みて担ね上げて取外し以て忍び込みて窃盜を働くを常套手段として窃取したる金品は悉しき價格に達し居れり而して價格七八十圓の物品を僅て契約を以て鮮人古物商に二三圓位に賣り飛ばし以て其代金を費消したるものなるが最近判明したる主なる被害者及び見積價格等は大約左の如し

▲大和町一丁目酒井方衣類六點（五十三圓）▲南大門通三丁目大畠方毛皮其他三十三點（卅八圓）▲黄金町四丁目小野方衣類十六點（六十六圓）▲本町四丁目三浦方衣類其他六點（[illegible]）等にて窃取の際は或者は見張りをなし他の者は忍び込みて窃取するものにて前記三名の外出生地不詳俗稱（十八）京城和泉町生れ柳弘錫（二十）京畿道廣州郡松坡生れ尹仁寶（十）出生地不詳金老馬（十八）南大門通五丁目崔奉等も檢擧されたり

●死刑宣告 堯島老婆殺し

十三日木浦地方法院支廳に於て死刑を宣告せられたる堯島新安面々事務所小使吳德千（二〇）といふは同面居住岐阜縣生れ杉山ひで（五〇）が獨身にて金持なる事を聞込み舊冬二十日午前一時頃新安巡査駐在所より用事ありとていでを誘き出し同家の西方田圃の中にて出刃庖丁を以てひでを滅多斬りに斬り斃み猶もひでが執念强く死に切れざるより大石を以てひでの頭腦を粉碎して遂に之れを殺しひでの胴卷より三十八圓を奪ひ取り翌日直ちに捕縛せられたるものなり

●忠州郊外に猛虎現はれて婦人を喰ふ

忠州に猛獸襲來し家畜の被害頻發せることは既報の如くなるが數日前同郡面德面三方里山中に燃料採集中の鮮童は約一町を隔てたる樹間に小牛大の猛虎が聲を鳴らして何物か噛喰せるを發見し腰を拔かさん許りに驚きて逃げ歸りかくと里民に告げしかば里民數十名は銅鑼棍棒等を携へ現場に急行せしに件の猛虎は影も見えず腥き血潮は枯草を染め寸斷されたる衣服は各所に散亂し胴手足等噛ひ盡して纔かに頭部を殘せる屍骸は見るも酸鼻を極めたり被害者は鮮女にして陰城方面より忠州街道を早朝通行中奇禍に會ひたるもの、如く何處のものとも判明せずと

●鴨綠氷上交通

鴨綠江は客冬以來流氷盛んなるにも係らず稀有の暖氣の爲め堅氷を結ばず氷上の交通不可能なりしが玆數日來の寒氣の爲め江上一面堅氷を以て鎖され愈々十五日午前より例年の通り鮮滿連絡會社にては安東縣新義州間の江上に橇の交通を開始せり氷上は約一哩半にして賃金は六錢往復十錢なりと

●入浴の留守へ

仁川各國公園上米國人ジョウストン方監視人鶴田與造夫婦が去年十二月三十一日午後八時入浴の爲め仲町一丁目平田圓藏方へ赴きたる不在中一人の鮮人鶴田方西方の外硝子を打破り內部の鐵枠を撚ぢ曲げ同家に忍び入り仕事の最中元日となり午前零時比入浴先より歸りたる鶴田夫婦及び同居人道脇幸七が三人連にて屋內に入りたるに賭の中に何か物音するより透かし見たるに雲つく計りの大男突立ち居るより直樣引捕へたる上警察署に突き出したるが京畿道富川郡永宗面榮內里金泰雲といふ圖太い鮮人なり

●横戀慕で放火

全羅南道潭陽郡大德面磐新里張泰容（三）は同村の呂基謨の妻奇貴人に戀慕し屢々此れを挑みしも應ぜざるより心中不快に感じ居る際基謨の妻は泰容が己れに戀慕して猥がましき事を言ひ寄るに基謨の父に訴へたれば泰容は愈々憤慨して亂暴にも基謨夫婦が分家すべき居宅に放火したり

●額に汗の寒の內 大塊翁雅筵 一座の吉吟

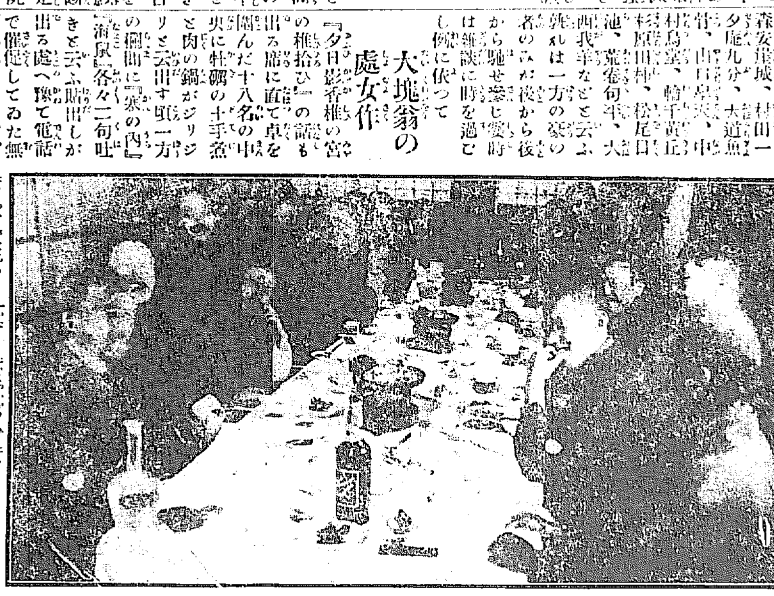
大塊翁の提唱で俳句會を開くと云ふ觸撒、場所はパコダ公園內カフエーパコダ、時日は十四日午後六時――日影射さぬ北側にはまだ殘りの雪の溶けやらぬ

三寒の日の宵の

口を溫突の小間に定刻前から主人大塊翁ご臆顔江口虎耳、青木鄰軒が控へて待つ程もなく森安堆城、村田一夕庵九分、大道無門、山口皐天、中村島蜻蛉、輪千黄丘、杉原田桝、松尾日池、荒巻句平、大西我羊などゝ云ふ、就れは一方の豪の者のみだ後から後からと驅せ參じ變時は雑談に時を過ごし例に依つて

大塊翁の處女作

『夕日影香椎の宮の椎拾ひ』の詠も出る席に直て卓を圍んだ十八名の中央に牡蠣の土手煮と肉の鍋がジリジリと云出す頃一方の欄間に『寒の內』（消風、各々二句吐きと云ふ辭出しが出る處へ豫て電話で催促してゐた無佛社長も來る中央の大塊、崖城、一夕庵九分、無佛相對して殊に



崖城博士の氣焰

頗る高く『博士は何時から外科に宗旨替えなすつた？』と言はれる程の凄まじさ其內にお定まりの大塊翁の鬮が出ると早速側から『其れは鬮ぢやない茅だ』と崖城博士が云ふ『さう云ふ君の馬は昨今甚麼だ？』と一夕庵に入れられた横槍を『既に堂に上る』と逃るのを『是非一つ其堂に上つた馬を』と醉軒に畫帖を突き出されて閉口すると思ひの外直に縱大の筆を振つたはよいが

其鬮が大問題と

なり『寒の內馬も乘りて高麗の春』と大塊翁に早速返討となる一夕庵理事の褒大も問題となり孰れ其內に鬮いてやらうと云ふ崖城博士と其應不遜な聽者には聽かせられないと云ふ一夕庵理事との押問答最中に『デン〳〵デン〳〵ヤットの聲の寒さ一哉』と大塊翁が皮肉るのを『デン〳〵デン〳〵額に汗の寒の內』と崖城博士直に應じて一座の喝采を買ふ、其間話は本紙元旦號の綸附錄問題となり關屋鼎局長の龍を『此龍が

出たで元日雨に

なり』は蓋し本夕の秀逸との事、吟句の朗吟が濟むと今度は寄せ書が初まり大塊翁が『大道無門』と大書する無佛居士が『一句定乾坤』とやる崖城博士の馬、一夕庵の蝸牛、皐天君の大塊翁肖像其間に句が入り幾枚も幾枚も後から後から寄せ書が出來夜の闌くるさへ知らなかつたと云ふは近頃の雅莚である

▣籔入

年に二度地獄の釜の開くといふ十五日は小僧さん達の書入れの籔入であつた、朝から曇り模様であつたけれども四溫日和の溫かい日だつたので珍らしく開放された職人の弟子、店の小僧さんなど新らしい仕著せの著物を著けて早くから飛び出した、朝鮮では平素時折休む代りに各商店共籔入を重く見てゐないのでこれがために市中が賑はうといふ程でもなかつたがそれでも道がに何時もとは違つて電車の客も多く動物園だの大神宮だのに參詣するものが多く夜に入つては芝居活動寄席なんどに出かけるものが澤山あつた

懸賣と懸買 片や帳場の問題 片や臺所の問題

『四』行れば出來る ▲顧客の同情も集る 實業會幹事長 釘本藤次郎氏談

理屈はさうでも實行は却々困難なは何んのことだ、何んでも多年の舊慣を改善し打破しようとするには困難もあれば苦勞もある、併し其處を

▣忍耐して 困難などゝ云ふ子自らは先づ實行してかゝらねば駄目だ現に實業會は昨年起つて月末濟の實行を叫んだ所が毎年ならば年末の三十一日迄懸取りで忙殺さるゝ所を二十八日から三十日の間で大底集金の出來る所は出來て終つた而かも二十八九の兩日が尤も忙しく例年の樣に三十一日の

▣夜を徹して 懸取りに走り步くが如き忙しさはなく從つて銀行も二十八九の兩日が一番忙しかつたと云ふことである自然の樣だが實業會の賜と云はねばなるまい兎に角月末に決濟が出來て都合が宜いことは實際に判つたに違ひない全體商人とお客樣との取引を

▣月末決濟 にすることは困難だと思ふかも知れぬが商人同志の問屋と小賣店との取引が月末に決濟されずに居てお客樣と商人との間に實行しようとするのは餘りに蟲が好過ぎる『實業會の決議で商人仲間でも月末取引になりましたから

▣お客さん の方でも何分宜しく』と云ば顧客の同情も自然と集つて來る譯である、商人同志の取引も約束手形又は小切手を盛んに發行し南業會議所の會員位の資格ある商人は必ず銀行に當座を設けて欲しいものである約手の月賦拂などゝ云ふ

▣不態裁な 取引は京城より他に例はない實業會も暇くなれば又再び大會を開いて徐々に弊害を除き取引を圓滑にして行きたいと思て居る

▲是非改良して貰ひたい 京城紳行會社出張所主 岡田夫人談

高野さんの奥さまの御意見の通り全く京城の商人の不規則なのには困ります毎月の豫算をちやんと立てゝ今月は是れ位お拂ひがあると思つて居ると二十五日にも三十日にも取りに來ないものですから止を得ず電話で催促して見ますと『御宅のは今月は少々ですから來月分と

▣御一所に 御願申しますと云ひ又最『つひでのになると『御宅なんかは銀行に預けて置くのも同樣ですから何れ其內頂戴に出ます』と云ふのですさうして二月か三月に來た錢を見ると思はぬ多額に上つて居ることがありまして驚くことがありますこれは是非一つ改良して頂いて必ず

▣毎月末日 にお拂を取りに來る又拂ふと云ふ事に定めたいと思つて居ます現金買なぞは到底私共の家庭では實行が出來ないと存じます

宗教界消息

◎忘機吟社新年吟集 十六日午後より池町二丁目不知火館にて忘機吟社の新年吟集を開催すべし同好多數の來會を希望すと

◎妙心寺提唱 臨濟宗妙心寺別院にては十六日午前十時より無門關の提唱あり

◎京城基督教會（南米倉町） 十六日午前十時半朝鮮說教、入信の栞より神の聲（山本牧師）午後七時半夕拜說教信仰生活（同牧師）來聽歡迎

◎京城日本基督教會 日曜學校一月十六日午前八時五十分『主は來ませり』一月十六日午前十時小野村牧師『大人と小人』同日午後七時半[illegible]牧師

◎メソヂスト教會（旭町二丁目） 十六日午前九時十五分日曜學校、同十時三十分說教禮拜、午後七時三十分傳道說教[illegible]同牧師 來聽歡迎

◎日韓禪寺 大和町二丁目曹洞宗日韓禪寺にては十七日午後一時より[illegible]講話會ありと

▲綾瀬川來る

大阪相撲より東京相撲協會に入り一時三役まで進みたるも何か感じて力士を廢業し道樂半分に習ひ覺えた浪花節が見にモノになつてるところから丁髷姿その儘、名も力士時代の綾瀬川で高座に現はれ、その態度の堂々たると、聲量の豊富なのが呼物になり角力の浪花節として大評判になつた綾瀬川は今度廣島興行を打上げて近く京城に乘込み有樂館に開演する由なり

▲壽座の日蓮上人

壽座の長太郎一座は十六日より日蓮上人一代記大序より勸作住家まで[illegible]旭町龍國寺日宗[illegible]の總見ある由重なる役割左の如し
日蓮上人、女房お蔦、十四郎[illegible]

△御成座 十六日の替り狂言は一番目[illegible]二番目[illegible]なり

●盜賊 ▲呑んだ揚句盜む [illegible]圓を窃取したる爲め京城地方法院に[illegible]所 比某所有なる物置小舍に侵入[illegible]月十日より十二月十五日迄の間に[illegible]頭京城[illegible]井町一丁目森本某方戸口[illegible]元業面新陵里韓錫洪方屋根に乾しあ[illegible]二丁目吉田某方へ忍入り蒲團四枚を[illegible]

天氣 晴れ 一月十六日

皇后陛下 各宮殿下 御嘉納
國民新聞社編 定價五十錢郵稅八錢（本社負擔）
理想の家庭
本社は現代斯道專門の諸先生が我國家庭の改良向上を圖らんが爲に住宅の建築構造より育兒、衞生、家事、經濟の事に至るまで、家庭に必要なる百般の事項を細大漏さず叮嚀親切に講述執筆せられたものであります。加之前記各題目の後には家庭便覽こして家政上最も大切なる種々の心得を記載し、尚諸先生考案の鮮明なる寫眞版を挿入してあります。主婦計りでなく家政研究中の女學生諸孃の、是非共一册を左右にせらるべき最新刊の良書でございます。
大取次所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

くすりは山岸
諸官衙御用達 洋藥 賣藥 卸問屋 醫療及試驗器械
懇切叮嚀、迅速確實に市內配達及び地方通信販賣致居候
京城本町一丁目郵便局前 山岸天佑堂 藥品部 器械部 電話

ハカリ印
油斷大敵！
かぜは萬病の基で決して油斷は出來ないのである。之を打捨て置けば往々チブスや肺炎に變症して後悔する事となる故にかぜは勿論熱病に罹られたる諸君は速かにハカリ印のヘブリン丸を服用して熱を解き全快せらるべし。
大阪田口のヘブリン丸を ハカリ印のヘブリン丸と改稱

十三日京城府黃金町一丁目渡邊金召使[illegible]方にて飲酒したる上共謀して同家內房の押入れにありたる紙箱より金二[illegible]清道郡外北面生れ[illegible]名は共謀し十二月十三日午後十時頃京城大和町一丁目元京日社跡にある[illegible]各九十[illegible]定を竊取　福岡縣企救郡板櫃村生れ當時住所不定中村茂（二三）は昨年十一[illegible]八箇月の判決となる▲自轉車泥棒　山口縣阿武郡山田村生れ當時住所不定岡村滿（二三）は客臘十八日午後九時[illegible]綿布[illegible]村生當時住所不定大浦芳次郎（二七）は昨年十二月二十四日京畿道高陽郡[illegible]不定大工職高木繁太郎（三五）は客臘二十二月二十四日午後六時頃京城黃金町[illegible]

明太漁業

咸南に於る特產物　最近の漁業狀況

■漁獲漸次減少す

明太魚は咸南に於ける特產物にして首位を占めたる漁業なりと雖も大正元年より其の漁獲漸次減少しつゝあり昨年十一月下旬より十二月下旬迄に於ける漁獲高を見るに前年に比し更に不漁にして最早や在來の漁具漁法に於ては到底本漁業の繼續維持困難なるが如し近年最も盛んに行はるゝ手操網の漁場は西湖津の沖合十一月中下旬に初まり遮沛沖合二月上旬に於て終はる、而して盛期は十二月中旬にして冬至に至る迄を以て例年の前半と爲し其後を後半期と云ふ、昨年は十一月下旬に於て漁獲殆んど皆無にして十二月上旬より僅少の漁獲あり、漁場は西湖津より馬養島に至る沖合に及び陸岸より約十浬を離れたるも十二月中旬に至り漁場非常に陸岸に接近し三湖の如きは陸岸より約三浬と爲れり

■底刺網と明太延繩

底刺網は昨年十二月上旬より馬養島沖合に於て初漁あり漸次好況に向ひつゝあり、目下漁場は前津沖合より馬養島東方沖合に至り手打網に比し稍沖合の漁業なり、明太延繩の漁期は他の漁業と同樣なるも本漁業は期間最も長く昨今馬養島沖合にあり、十一月下旬馬養島南方より翌年四月下旬端川沖合に至る間操業し其の手操網に從事せる漁夫は三千八百七十名の多數なるも本漁業は出漁日數極めて少なく每月上旬に於て四日中旬に於て三、四日、下旬に於て四、五日合計十二三日にして此の外午前又は午後僅少の時間出漁せるものありと雖も操業不可能にして歸港せるもの多し、昨年十一月より十二月末迄の手操網の漁獲高は一隻に付最多四十駄最少一二駄平均十四五駄內外にして之れを標準として推算する時は六千四百五十駄なり價格は平均十七圓內外にして漁獲高は十萬九千六百五十圓なり

■漁獲減少の原因

乾明太は昨年十二月中旬に於て十七圓內外を稱へ一時十八圓に下落せしも不漁の結果下旬に於て二十圓に復歸せり、製品は乾燥不充分ながら釜山方面に移出しつゝあり手操網に從事せる漁船數は四百四十餘隻にして昨年に比し四割を減じ漁獲高に於ても昨年に比し約五割を減退せり、之れ種々なる原因ありと雖も其の一つは昨年に比し氣候著しく溫暖にして從て水溫高度の爲め明太魚の回游稍遲延し且つ明太は海底を游泳せずして稍上層を流れたり手繰網は全く海底を游泳せる魚族を捕獲する構造なるを以て充分なる漁獲を遂ぐる能はず底刺網の出漁日數は手繰網と同じきも其の操作は晝間にして夜は其儘網を建置くが故に天候不良の際は風波の爲めに引揚ぐる能はず、其儘放置する事多ければ出漁日數は手繰網よりも稍多き割合なり

■鮮魚として移出

底刺網の漁獲高は一艘に付最多五十駄最少十駄にして平均二十四五駄總數に於て五千駄內外なり、相場は平均一駄十七圓內外を維持せり、明太相場は一駄十六七圓を下らず他品に比し品質良好なる爲め稍上位にあり、餌料は鰮を以て最良とし之れに次ぐは鯖なるが其他鱒、氷魚等を使用せり、鰮は咸南々半沿岸及び江原道產の秋漁鰮を用ひ鯖は江原道沿岸に產せるものを鹽漬として使用せり、最近の相場は一壹一圓二三十錢なり延繩漁業は前年に比し漁況の變化なきも飼料勘き爲め從つて出漁船數も多からず、然れども他漁業の不漁なるに反し相應の漁獲あり鮮魚として他地方へ輸送せらるゝもの多き爲め相場は漸次騰貴しつゝあり（元山）

輸移出檢查米

慶北輸移出穀物改良組合各米穀檢查所に於て大正四年中玄米檢查總石數五十九萬一千五百八叺內改良種二十七萬四千九十一叺在來種三十一萬七千四百十七叺に達し就中品質及び成績の良好なりしは金泉淸道地方にして大邱地方の比較的品質不良なるは蓋し地味の關係に起因するものなるが而して浦項地方は品質必しも良好なるに非ざれど乾燥充分なる爲め米穀に變質を來たさず從て檢查上最も忌む可き濕潤米の憂少なきは稍々稱するに足るものあり今昨年一月より十二月に至る月別檢查石數を擧ぐれば左の如し

	總數	改良種	在來種
一月	[illegible]叺	[illegible]叺	[illegible]
二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
五月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
六月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
七月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
八月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
九月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
十月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
十一月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
十二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	五九一、五〇八	二七四、〇九一	三一七、四一七

群山客月檢米

群山米穀檢查所に於ける客年十二月中の檢查米數量は優等米三萬三千六百四十二叺上格米七千六百三十四叺下格米十四萬八千七百零一叺合計十八萬九千九百七十七叺となり內產地別等級數量を示せば忠南產優等四千九百六十叺上格七百叺下格八千八百四十叺全北產優等二萬八千六百八十二叺上格六千九百三十四叺下格十三萬九千八百六十一叺なりしと

慶北綠肥獎勵

慶尙北道にては各農家に對し出來得る丈け高價なる人造肥料を使用せしめず綠肥を以て是に代用せしめんとし是が栽培を極力獎勵しつゝあるが大正五年度に於ける慶北道綠肥用大豆栽培豫定反別及び其の利益推定を見るに自作農戶數合計五萬九千八百十九戶あり此うち泰化の一千六百卅三戶鬱島の一千百五十五戶を除き一戶一反步宛の綠肥大豆を栽培すれば五千九十五町六反となり其他授產費を以て配付されたる種子にて栽培すべき反別二百七十町にて栽培の結果綠肥の收量六百七十萬七千貫を得是が莖葉及び根に含める窒素量は實に五萬一千八百五十九貫となり是を價額に見積れば十八萬一千五百圓となる同上より種子代を控除するもなほ十五萬四千六百八十二圓の收益あり而して此窒素たるや綠肥大豆栽培により空中にある窒素を遊離吸收するに止まるものなれば各鮮農が單に自家の大豆を以て是を製造すれば足るものにて製造の結果農作物には非常なる効果あり是を使用すれば全く人造肥料の必要なしと因みに慶北道種苗場の試驗成績によれば綠肥大豆の施用區は少許の土肥を施用せしものに比し平均一反步に就き玄米三斗四升九合の增收を見たり依て本年綠肥大豆栽培見込地五千三百六十五町六反步の總增收高一萬八千七百二十六石此價格實に十八萬餘圓に達すべしと

お正月には何より第一に寫眞をおとりなさい
京城寫眞館
電話一〇四〇番、二三四九番

安東共進會計畫

慶北安東にては五六月頃の好季節を見計ひ北進會を開催し罪威以北の實業上の發展に資せんとて去十一日民間有志重立者慶北館に會合し協議する所ありしが愈來月早々より是が準備をなす筈而して該會開期中には邱安道路開通式を擧行し慶北道廳及び本府よりの臨席を乞ふ可く交涉委員を選定し不日其筋へ申請すべし愈々共進會實現の曉は安東地方の利益少からざる可しと

連絡船乘降客旬報

關釜連絡船乘降客　乘客二千百十名內一等五十名、二等二百九十六名、三等一千七百六十四名にして降客一千四百八十四名、內一等六十一名、二等二百三十一名三等千二百零二名にして乘降合計三千五百九十四名也

釜山蜜柑好況

昨年末より市場も振はず安價を以て取引されつゝありし蜜柑界には當春以來市場漸く活氣を呈し昨今釜山食糧品市場其他各方面に日々入荷あるにもかゝはらず盛況に取引され上等品にて二圓三四十錢より中等品にて二圓內外の市價を傳ふは之れ全く滿鮮への內地移出途絕にも何等關せず盛況なる其原因とする處は東海道の名產地たる靜岡の不作にて東京方面の需要に不足を來したる上備中國地方の出來不良なりし結果によるものなり故に紀州原產地各持荷主の腰强にて其指價の高價なるとによれり

忠北郡守會議

忠北道廳にては來る二十日二十一日の兩日郡守會議を開く

釜山露國領事

釜山駐劄露國領事シエスコルジモーフ氏は二十四日午後八時半出帆新羅丸にて長崎に向ふ

木浦通信

▲橋本府尹病狀　腎臟炎にて引籠中なるが其後快氣捗々しからず胃腸をも害し居る上更に中耳炎を倂發したる由にて此數日の經過によりては或は轉地の上靜養の必要あるべしと▲稅務課長來木　度支部稅務課長鈴川利三郎氏は事務視察の爲め來る十六日來木の豫定

●慶山人口增加　慶北慶山邑には昨年一月には內地人戶數百十一戶なりしが本年一月には百廿一戶となり慶山にして僅か一箇年に十戶の戶數增加は著しき進步なりと

●李慶北道長官招宴　李慶北道長官は新年の祝意を表する爲め官民有志百有餘名を招き來る十七日午後五時より道廳內に於て祝宴を張る由

●忠北一部長視察　齋藤一部長は行政事務視察の爲め十二日來忠是光館に一泊し十三日堤川郡に向つて出發したるが堤川丹陽各郡を視察し十八日歸廳の筈

●忠北農業技手會議　忠北道廳にて來る二十二、二十三の兩日各郡農業技手會議を開くべしと

入院隨意（診察夜九時迄）
腎臟病　膀胱病　淋病　梅毒　痔疾　皮膚病
泌尿器病專門
永樂町二丁目、金光教會隣り
安部醫院
電話一九四一番

連絡船上陸客

十四日午前釜山入港新羅丸　二等客[illegible]

商況

東京株式特電

東株新安し

債券現物特電

東京十五日出來値段（前日との比較）東洋拓殖　日清汽船　朝鮮銀行　京城電氣　一六〇、八〇　一四九、〇〇

公債直取引

東京十五日出來値段（前日との比較）[illegible]　九六、〇〇

深川在米特電

十五日現在高　朝鮮米　臺灣米　內地米　八二、五〇　八三、五〇　九四、〇〇

東京期米特電

十五日前場　一七〇、四〇四　八九、四七四　二〇六、一〇〇

大阪株式特電

十五日前場　當二月限　寄付　高値　安値　止め　[illegible]

大阪三品特電

[illegible]

大阪期米特電

十五日前場　[illegible]

下關期米特電

[illegible]

朝鮮物產特電

釜山大豆　慶山大豆　浦項大豆　元山白大　端川白大　城津大豆　龍山大豆　長湍大豆　[illegible]

雜報

毛斯綸更に昂騰

[illegible]

値を挽く五厘　舊冬中の高

[illegible]

製粉依然持合

[illegible]

目先は寧ろ下押

高値に達し居ることなれば目先は寧ろ下押しあらざれ[illegible]

押て騰貴を促す

[illegible]

乾海苔の產地

[illegible]

毛皮類品薄

[illegible]

平年の約三分の一位

[illegible]

當地の割高を期す

[illegible]

下關相場

[illegible]

仁川米豆取引所仲買人
海岸町
三巴仲買店
電話長[illegible]

南大門の廻米

[illegible]

仁川現物市場

[illegible]

仁川期米

▲十五日前場　大阪入電

二節十五圓〇一錢

三節〇八錢と高移

大阪四節十六錢と暴騰

六節十錢と安移

市場零聞

▲前場の大商戰

▲前場跳ね返す

吉
行質仲買店
仁川海岸町
電話[illegible]

大阪の跳返しに連れ人氣は稍買逸

目先利喰に反動來乎

馬關筋買高

一面正米界の好況

▲期米目先觀

買難平を續行

倒轉買越

鮮人の買思惑

麥作の懸念

或は一爆發

▲正米思惑熾烈

錢高と價格二三十

三四十錢切安

本年稻作の凶作を氣遣

昨日來五千餘叺の思惑買顯

上支那人七八千叺計四萬餘叺に

當然の成行で移出不可能

▲買時期尙早乎

仁川米豆取引所

十五日の三月限

前場	
寄付	十一圓四十錢
止メ	十一圓四十八錢
高値	十一圓五十一錢
安値	十一圓四十一錢
出來高	二萬七千七百石

平均値段	
一節	十一圓四十二錢
二節	十一圓四十七錢
三節	十一圓四十九錢
四節	十一圓四十六錢
五節	十一圓四十七錢

賣買取組高
一月限　二百石
二月限　七千七百五十石
三月限　一萬九千石

北濱だより

▲砂糖株

[illegible]

演藝案內

壽座　本町　電話五七八　十六日替り狂言　前　曾我對面の場　切　日蓮上人一代記　[illegible]

詩館　壽町　電一〇五〇　[illegible]

浪花館　明治町　電話二六〇番　東京落語三遊派幹部一行　[illegible]

御成座　電話二九一　十六回目特題　喜劇　[illegible]

大正館　櫻井町　電話八七三番　一月十三日より特別大寫眞　伊國チネス社[illegible]　正事探偵大活劇　覆面のアマゾン（第二プロテアン）[illegible]

黃金館　黃金町四丁目　電話二六三七　新派大悲劇　戀の迷　[illegible]　泰西探偵大活劇　マンジヤ　[illegible]

有樂館　本町一丁目　電話二六六　[illegible]

京城學校組合告示第一號
[illegible]
大正五年一月十日
朝鮮總督府[illegible]

仁川商業會議所設立發起人
仁川商業會議所公示第[illegible]號
[illegible]
大正五年一月十五日
仁川商業會議所設立發起人

期米
取引[illegible]
大阪市北區堂島[illegible]
入江商店
[illegible]

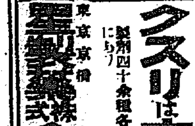
謹賀新年
產婆　堀越直子
京城本町一丁目
電話一〇四八番

朝鮮米雜穀移出商
依託販賣並に遭難一切
仁川濱町
西尾商會代理店
主任　北島五郎
電話五四五番

大阪北濱二丁目
直輸出入商
本店　西尾商會
電話本局二四〇八番

目に見へテ
ズンズントキク
シユマズイタマズ
井上博士

ロート目藥
目を拭くため消毒した布と案の點眼器を添へてある
定價[illegible]
有名藥店にあり　本舖　東京　山田安民藥房


クスリはホシ
製劑四十余種各藥店にあり
東京京橋
星製藥株式會社

（圖）（夕刊）　大正五年一月十六日（日曜日）　京城日報　（明治卅九年八月十日第三種郵便物認可）　第三千一號

越後大評定

第百一席　早川貞水口演

渡邊九十郎の諫言

船頭戰慄へながら　船『何事で御座います』九『今宵は此船を元へ戻せ』船『へエ……』九『戻さぬとあれば汝等兩人一刀兩斷に致すぞ』船『ウヘーツ』此の一言に膽を潰し、慌いてズツと竿を差すと向ふの方へ船を漕出し、棹を引上げ、櫓をかけて大川へ入ると○『驚いたな與助』與『イヤ不意に船頭ツと云はれたので吃驚すると一刀兩斷にするぞーと云つて、睨みつけたので膽を潰しました』○『何でも御家の忠臣に違ひない』與『どうも宜くは分らぬが立派な御方で、大變な勢ひだつたから、既に斬られるかと思つた』○『拔いたか』與『イヤ拔きやしないが、柄へ手を掛けて居ました』それとも知らず比留間、正木の兩名は、水門際へ來り　比『船頭……船頭ッ』小聲で云ふと、傍より何者とも知れず『船頭は戻しまして御座る』其一言に驚いて、窃に若殿を伴れ、御殿へ引返す、翌日に相成りまして、渡邊九十郎、御前へ罷り出で、御人拂ひを願ひ　九『さて若殿へ言上いたします此程夜々水門口より致して、新吉原三浦屋四郎左衛門方へ御通ひ遊ばす由、若殿には之を良きことに思召しまするか、失禮ながら貴下樣は、御當家御一門、永見市正樣の御子樣にて、御當家へ養子の御相續人となられましたるは偏に御血脈の御順當に御座います、御承知でも御座いませうが先頃御國表に於て下野守綱國公御逝去遊されましたのも御家の悪人共の計らひにて、御毒殺との風說然るに小栗美作一子大六を以て御當家御相續を願ひ、大殿樣の御許しを蒙り、御國表に於て、愈々御家督御評定となつたるとき、山田、膳、若殿を以て御順當なる御血脈なりと願ひ出で、終に美作一子相續の儀は立消えて相成まして御座る、去れど美作の野心未だ全く收まらず、今尚機會を見て御家を乘り取らんと企謀み居る次第に御座います、然るに殿樣には比留間、正木の如き者の申しあげる事を、良きことに思召し、如何に御廢若とは云へ、吉原通ひに浮身を窶し給ふとは、如何にも殘念至極に存じ奉ります、是みな悪人の計略にして、御主君の御ため、後日宜しからず、何卒御家の重きを思召さば、今より御改心下され、吉原通ひの儀は御止りを願ひたく存じ奉る』九十郎命に換へて言上奉る　綱『コリャ九十郎、其身諫言心魂に徹したり、綱國必ず共に、其儀は思ひ止まるに依り、宥せ』九『へエ、恐れ入り奉る、誠に有難きことに御座る』サア夫からピッタリ御止りになつた、そこで九十郎弟の九三郎にも申付け、交る〴〵晝夜とも、殿樣の御身の上を守護する、悪人共は手の著けやうがない、すると其内に殘念なことは、九十郎の弟九三郎が、不圖して風邪の心地から漸次重くなり、今は餘程の重態、それがため九十郎家には老人の親爺と、年齡の往かぬ弟一人で御座いますから、是まで通り若殿の御身を守護することが出來ない、然ら油斷なく致しておりましても、終に悪人のため目を偸まれ、一日若殿『ア、今日は九十郎が居らぬに依つて、悠々と汝等と話しが出來得る』與『御意に御座ります』

滿蒙處分論　定價金一圓　郵稅本社負擔
露國クロパトキン將軍原著　日本大井包高陽譯
京城日報代理部　振替貯金京城三〇〇

一月十七日九星
舊十二月十三日癸丑
本命五黄　八方塞赤口

▲五黄　周圍睦和敦油斷のならぬ日　新事見合南方は吉　暗劍なし▲六白　男氣の出る日　轉居入學求職金件行商探鑛緣組等萬吉物に勝の日▲七赤　大當りの日　轉居旅□求職名取探鑛婚禮入寄養等萬吉▲八白　せわがひのなき事有日　新事手掛舊事は吉　紹介仲人事せぬがよし▲九紫　評判よき日　轉居入學金件名取求職建築婚禮入組の仲裁等萬吉▲一白　あてにならぬ事多き日　新事手控舊事は吉　婦人と交渉を忌む▲二黒　女難失物用心の日　新事手控當の事は吉▲三碧　友難せんさす注意　新事手控舊事は吉一切のせわ事を禁ず▲四緑　平運の日なれども新事控目の方吉　舊事樹を植るのは吉

◉農家の福音　新刊春季種苗案內として美麗なる□入の詳細案內書は各農產種苗問屋として有名なる東京瀧野川大日本農園にて發行し希望者へは一報次第無代進呈せらる

◉飛行少年の發展　少年雜誌中に於て嶄然頭角を現す同誌は近來益々體裁を整へ內容を充實せしめ二月號の如き全誌盡く趣味豐富にして且つ有益なる記事續出を以つて充たし居れるが中に興趣無限知らず〳〵の中に少年に飛行趣味と智識とを與へしむるは本誌の期待さする處他誌の絶對的に企て及び能はざる長所なりとす

社會と人物

▲定價金廿二錢　郵稅本社持

蘇峰學人著『社會と人物』は採擇する所の範圍極めて廣濶にして目的亦多方面に渉れりと雖も其の主眼とする所は個人の社會に對する義務を遂行し各個相互の權利と義務との均衡を保たしめ而して社會に生ずる快樂と幸福とを各個に分配し享受するの道を訴へ社會の人心を光明に導き恥を知り義に勇み公に奉じ己に克ち善良なる市民たり忠誠なる國民たる可き教養を與へ趣味の涵養を說き風俗を敦厚ならしむるの方便を論じて理義明晰反覆丁寧を極む而して北白川宮殿下大久保卿を憶ふ以下人物に關する十五章の品藻は江湖の一讀を要請するに於て十分の價値ありと信ず　京城日報社代理部

毛深き人は緣遠い

ヒゲ●腕毛●すね毛●胸毛が濃い爲に御婦人方は御湯屋に參られ皆樣と一所に入浴せられるに恥かしく又白粉を塗るにも能くつかず世間には毛深の爲めに緣遠いなど、御なげきになる方も多くあられますが決して御心配はありません三錢切手を封入して東京府西大久保町五區池田はな子宛御申越あれば安全なる毛生止藥を御知らせも致します

子宮病血の道とヒステリーに惱む人は

神仙湯

彼れ是こ迷ふと無く　驚く程効く靈藥神仙湯を試よ現に百方手を盡すも効なき難症の血の道や、ヒステリーや、數年多年不治の子宮病の方々が神仙湯の服用で漸次快癒し嬉さの餘り感謝の狀（現在保存す一般の閲覽に供す）を送らるゝ實例も尠からず若不幸にも是等の病に惱む人あらば症と雜症の論なく試よ神仙湯は家傳の秘方藥なるも今や全國各藥店にあり

●こんな徴候　●頭、手、足、肩、腰、膝、背等しびれ痛み張り●彼處此處が差込む●何となく腹が張る●下腹が張る●便秘●逆上●耳鳴●頭痛●肩凝●眼まひ●頭重く●腰冷●足冷●寒氣●夜眠られず●手足のしびれ●血色惡しく●浮腫等に惱む人は片時も早く神仙湯を試みよ

定價　[illegible]

名古屋市東區京町二丁目
本舖　荒川長太郎
電話四千百廿七番　振替口座大阪一三三二三

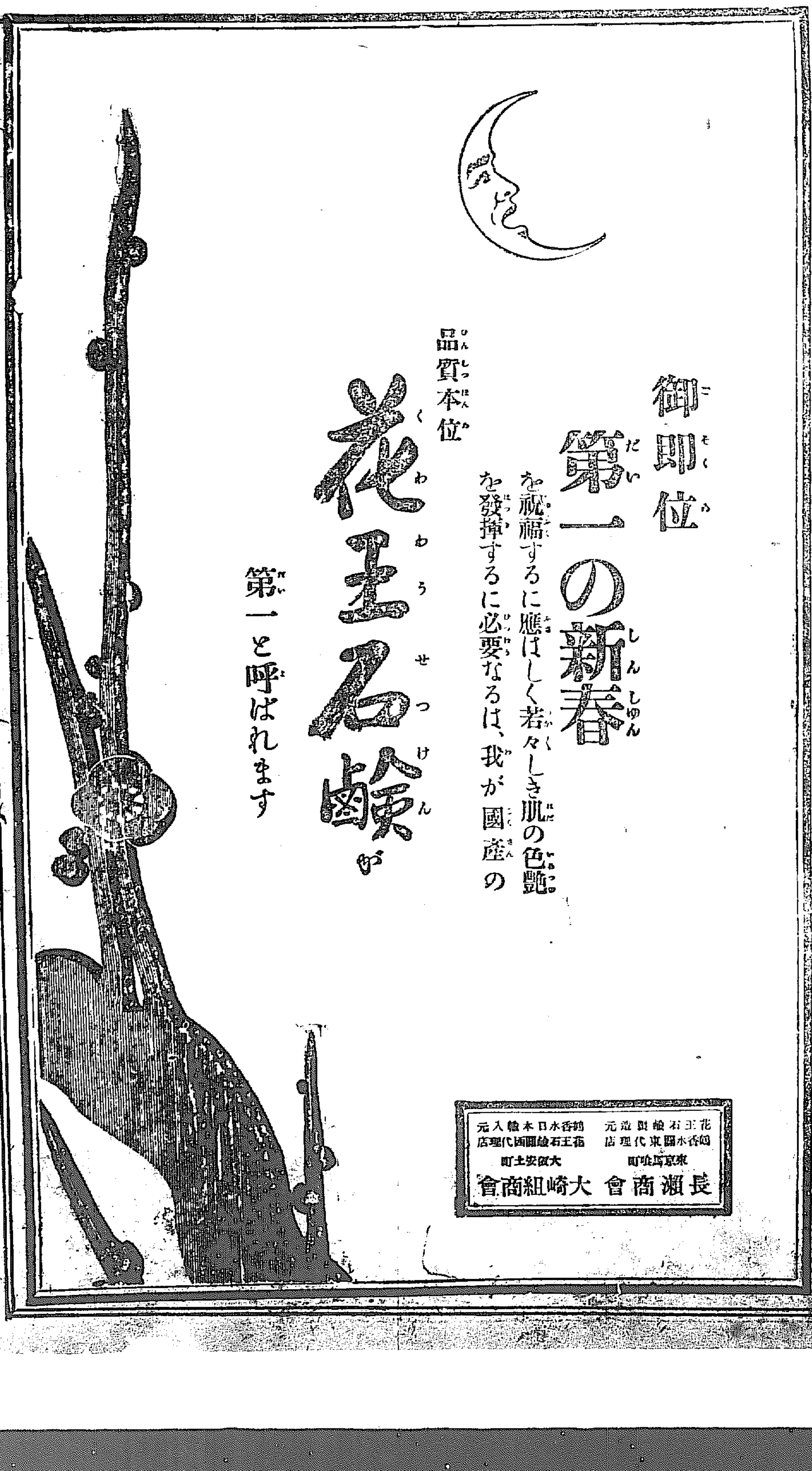
りん病

滑沼で困る方多年の慢性も自宅で人知れず秘密に治るフシキの妙藥あり只一劑を試よ切手三錢送れ其妙藥と自宅療法の詳細を報ず
名古屋市南かじや町　武藤亀吉

家傳靈藥　**ぢの藥**
痔退座藥　痔快丸
●痔疾一切重症の脱肛、痔瘻、等現狀の儘にて治癒奏効顯著の家傳良藥諸名氏の證明ご病原理由自宅治療法の冊子を呈す
●本舖　東京京橋區　小松盛林堂
●各藥店に有小松痔藥ご御示命乞ふ

數ある中をM印は特に撰ばれて畏き邊に御買上の光榮を得たる最優良品ご御記臆を願ます
三田土ゴム製造合名會社製造
發賣元　大阪唐物町四　飯田商店

滋腎田春丸
陰萎病並に神經衰弱に大効あり
東京銀座　岸田吟香
電話本局四七七番



汽車

京城日報

第三千一號　十六日朝刊

大正五年十一月十六日（一）　THE KEIJO NIPPO　日曜日

本紙定價　一部金三錢五厘　一ヶ月金六十五錢　郵稅共三ヶ月金壹圓九拾五錢　六ヶ月三圓七拾錢　▲郵券代用二割增

廣告料　▲五號活字一行金七拾錢　▲雜報欄內一行金壹圓貳拾錢　▲指定一行は二割增　▲三號活字の一行は二號活字同樣　▲六號活字の一行は五號活字同樣

發行兼編輯人　奥田直毅
印刷人　谷口政太郎
發行所　太平通一丁目　合資會社京城日報社
電話　編輯用長三四五番　營業用長一二二四番　三八番　長六六〇番　振替貯金口座京城三〇〇番

總督の訓示と吾人の覺悟

九、鑛物の分布

從來不明なりし鑛床の性狀を踏査し、其鑛業的價値を闡明して以て一面鑛業行政の參考に資し他面企業家の調査に便せんが爲め總督は併合の翌年を以て新に鑛床調査の事業を開始せるは前述の如し。此調査は年々豫期以上の進捗を告げ昨年末迄に於て既に京畿、忠淸南北、慶尙南北、全南及び黃海の各道に亙りて其一部若くは全部の査了を見るに至れり、而して其結果幾多の主要鑛床を發見し、多數有望の鑛山を認めたるも、然かも其大部分は未だ採鑛に著手せず、又鮮人の幼稚姑息なる操業に委せりといふ、朝鮮鑛業界の前途は尙ほ遼遠にして之が開發の餘地甚に鮮からずと謂ふ可し

今本調査並に斯界の現況に基き主要鑛物の分布狀態を略說せんに鮮內の鑛産は金銀を以て最も主要なるものとし、鐵、無煙炭、銅、鉛、亞鉛、黑鉛、褐炭、硫化鐵、之れに亞ぎ、尙ほ重石、水銀、水鉛、錫、石棉、雲母、滑石等鮮からず、又裝飾用材としては朝鮮玉、大理石の如き頗る豐富なり、而して主要鑛産地方中金、銀は平安南北、慶北並に京畿の各郡に賦存し、殊に平安南北道に於ては義州、昌城、宜川、龜城、寧邊、平原、順川の七郡最も著はれ、黃海道に在りては遂安、延白、成鏡南道に在りては新興、安邊、永興の各郡を主とし、また京畿道は楊平、驪州二郡、忠淸南北道は永同並に靑陽、洪城三郡をもつて其尤なるものとす

無煙炭は朝鮮特有鑛産物の一にして總督府所管の大同無煙炭田をはじめ价川、順川、德川、孟山等の各郡に分衍し、其鑛量極めて豐富なるのみならず、品質亦頗る優良なるを以て之が利用法の研究と共に將來莫大なる需用を喚起す可く、開發の促進を見る遠きにあらざる可し

鐵は平安南道价川、黃海道安岳、殷栗、載寧、海州、黃海、江原道旌善、三陟の各郡最も顯はる、現下の産額は左して大ならざるも此他海州、利原、北靑及び江西等亦有望の鑛産地に乏しからざれば産額の增加は將來刮目す可きものあらむ

黑鉛は平安北道に散延せる結晶質黑鉛並に成鏡南道永興、定平、北道沃川、慶尙北道尙州、江陵各郡に於ける土狀黑鉛を主要のものとす、而して鱗狀は全部內地の需要に供し、土狀は主として海外に輸出せらるゝにして需給の關係は益今後を待てり

銅は成鏡南道甲山の外未だ望を屬す可きものを見ずと雖も、京畿道抱川、成鏡北道會寧、慶尙南道昌原並に平安北道厚昌の各郡に賦存せるを以て今後の試掘に依り其價値の判明せらるゝこと遠き將來にあらざる可し

鉛及亞鉛は平安北道寧邊、成鏡南道端川二郡に於けるものを主とす、而して亞鉛の如きは此他諸所に發見せられ既に內地亞鉛製錬所の需用を充たして餘りあり、又褐炭は平安南道安州郡及び朝鮮東海岸に沿ひて所々に散在し、其質良好ならずと雖も鑛量の豐富なると運搬の便利なるとは此缺陷を償うて餘りある可く、硫化鐵は黃海道黃州、平安北道龍川、成鏡南道文川の各郡に著し、其他金、銀、銅、鉛及び亞鉛の混合鑛は現時稼行せらるゝもの極めて稀なりと雖も南鮮地方に賦存多きが故に朝鮮に於ける乾式製錬の發達と共に大に開發の促進を期待せらる

稀金屬の鑛物中、重石鑛は江原道金剛山附近及び忠淸南道靑陽郡に存するもの最も囑目す可く、重石鑛と共存する水鉛鑛も亦近時處々に於て發見せらるゝに至れり、而かも其需用は戰亂以來頓に激增し、價格亦舊時に倍加せるの狀況なるを以て之が開發は現下の諸鑛石中最も有利の業に屬せり、尙ほ成鏡南道端川郡は雲母及び朝鮮玉の主要産地にして雲母は將來の利用に從ひ益其需用を增加す可く、玉は頗る美觀を呈するを以て技術の進歩に從ひ事業の振興を期待するに難からざるを信ず

支那の鐵道（十）

京漢鐵道

白耳義シンヂケートが譯もなく京漢鐵道の敷設權を手に入れたるは、先にも言へる如く、英米の資本家の唱ふる條件の餘りに嚴酷なりしに反して、白耳義の資本家は極めて緩和の條件を以て支那に體面を保たしめつゝ兎に角調印を急ぐの手段に出でたるに因る、而して調印は一八九七年（明治三十年）に行はれたり。然るに此の借款條項は端なくも洩れて上海の新聞に現はれ、尙當時有名なるドクトル、モリソンは當時北京に在り此事を耳にし急電を倫敦タイムスに發しタイムス紙上にモリソン發の通信の掲げらるゝや、英國政府は白耳義の背後に露佛兩國の潜在せるを知り、而して佛蘭西のル、タン紙上に醜すべき政府の東洋に於ける成功と云ふ底の記事の現はるゝや、英國は是早疑ふの餘地なしとし、直ちに支那に抗議を提出し、一方に於て京漢線敷設權に關し盛宣懷との間に交渉を重ねつゝありし米國資本團も亦支那の不信行爲を憤り、英國と同じく抗議を提出せり。之より先き英、露兩國は支那政府の承知の上にて協約を結び、揚子江流域を英國の勢力範圍たるべしと定めたりしが、而かも佛白資本團との契約は調印せられ、佛白の外交は勝利を博せしなり、此の借款契約に據れば一億二百五十萬法の公債を發行し、支那は一千三百萬兩を供給し、資本總額は一億三千四百二十五萬法に達する豫定なりしが支那は僅かに五百八十萬兩を出資したるに過ぎざりき。京漢線は一八九九年に起工せられ、幾くもなく團匪の亂ありて工事を中止するの已むなきに至りしが、後竣工して一九〇五年には正式に開通を見たり。（黃河の架橋のみは此より後る）

放浪漫記

大谷光瑞

（承前）地山に近く溪を帶び淺水淸冽一勝地なり茂林修竹今猶古に讓らず茂林は巨木多からずと雖も修竹は萬竿の耶珂頗る京都附近の如し右軍の眞蹟の石刻を存せず今在るものは康熙帝の御書の之に臨するものなり高さ一丈六七尺幅六七尺頗る巨碑なり大禹陵は府城の南十四五支那里にあり陵は形を存せず廟は巋然尙在り傳へ言ふ司馬子長の會稽山に登り禹穴を探ると云ひしは此地なりとし傍に禹穴の二字の刻せる石を建つ廟は頗る大建築にして康熙の頃建てしものならんか泰山東嶽廟孔子廟に比せば著しく下位にあれども江南第一の名を博するに足る廟裡蝙蝠頗る多く惡臭鼻を掩ふ紹興の名勝は此三地を第一とす秦始皇帝の會稽に登り丞相李斯に命じ秦の威德を刻せし石は既に亡しと雖も今は其の摹刻すら見ず

金石の保存は甚だ乏しく遺憾に堪へず一般に山陰の山水は丘山他地方に比し木のあると水の淸きと田畝村落の中竹林樹木相間るとにより良好なりと斷言するに憚らず然れども小生は山陰山水の奧境なる三中に至らざりし爲眞面目を比詳する能はざるも長江一帶は到底この淸麗の景なく四川にやゝ類似するものを見ると雖も未だ山陰に及ばずして古より美稱するは當然なりとす、然れども本邦に於ては尋常の風景にして九州にても容易に之と比埒する風景を見ること稀なりとせず五日朝紹興を辭し再びモートルランチにて杭州に向ふに途中より行かずに之を質すに水路水淺く舟橋下を行く能はざるによる蓋し秋來雨多く一般に淺水漲り田園を浸せり特に當日は陰曆の晦日に近く潮の驚く頂る甚だしく當朝り持は著しく水量を增加し爲に航行を妨ぐ能はざるに至れり不得止輕網を雇ひ七十支那里を航行し午後五時西興に著すこゝより杭州に至らんとするも轎夫命に應せず強いて之を拉し行つて錢塘江畔に至れり時に暮夜物色を辨せず官渡の舟艇は岸に在りと雖も命に應せず對岸の燈影點々水に映じ時々汽笛を聞くのみにして如何ともすべからず遂に官渡の差員を呼び強いて舟を艤せしめ對岸に渡り杭州城外に宿す翌朝上海に歸らんと欲し停車場に至るに汽車不通の掲示あり驛員に復舊の時日を訪ふに知らずと直ちに我が領事館に至り瀨上領事を訪ふ領事曰く昨夜上海に暴動起り機器局を襲ひし爲に鐵道不通となれりと不得止杭州に宿泊し又湖山の勝景を探る湖山の風景は春夏秋冬佳ならざるなし支那第一の稱あるや宜なり此日天色晴淡遠山窈窕特に眺望に宜敷からず然れども猶ほ佳趣たるを失はず山陰の山水と比するに數等の上位にあるは爭ふ可からず（十二月八日）

財界時言（十一月十五日）

暖氣と作物

○昨年の暮より此の春にかけこの暖氣は近年稀なり、內地なりせば正に梅花の候なり。但だ今後酷寒の襲來することもなく、暖氣を保ち通すべきや否やは今日にして言ひ難し。

○寒氣の薄きは越冬の人には此上もなく結構のことなれども、寒かるべきに寒からずして、寧ろ溫暖に過ぐるは、或は異例として必ずしも萬事に宜しからず、何ものにか惡影響を及ぼすことなきや。暖くて結構との挨拶の末には農作物を懸念する言葉を聞くこと多し。我れ人共に誠に此の心配は有り。

○數日前水原に本田模範場長を訪ひたる時、談此事に及ぶや、博士の曰く。若し今後過度の冷氣の來ることなくば、本年は一般に作物の豐穰を喜こぶに至るべく、例年よりは却て好結果を見るならむ。然れども麥の如き既に溫氣の爲め芽を吹きかゝりしものが、急に沍寒の來るに遭はば、忽ち衰微して本年の麥作は甚だ不結果に畢るべし、啻に麥のみとは謂はず蔬むる所の惡影響は其範圍狹しとすべからず。要ふるところは酷寒の來らざるなきやにあり。二月の半頃まで寒氣餘りに甚しきことなくば樂觀して可ならむと。

○博士又曰く。年暖なれば害蟲減せずして作物を損ますこと夥しからむと併人皆憂ふ。成程尤なる心配なり。しかしながら、昨年十一月十二三日頃の寒さは本年の比にあらざりし程の寒氣にて、其前後の寒さは一般に寒氣なりしが故に、害蟲の發生も少なかるべしと期待されたるにも拘らず、作物の蟲害は矢張り例年と大差なかりしに思へば、此の冬の暖氣が害蟲の發生を助長すべしとは考へられず。此點は太く憂ふるに當らざるべしと。

○氣候と農作物との關係を發慮する人の爲めに、本田場長の談話を茲に紹介して參考に供する次第也。

大塊提唱句會

十四日夜カフエー、パゴダで大塊翁提唱の句會を催す吟句寒の內、海鼠各二句吐き時間の都合で互選はしなかつた（順序不同）

寒の內

この寒さすくと靑竹光る哉　田柿
寒中に艷あり爐上の釜冴る　同
襯衣無きが自慢の一ツ寒の內　魚骨
皮衣賣る町通る寒の內　同
國質の部に入るや寒の內　皐天
岡餅に夜半親むや寒の內　九分
寒の內裸詣の負惜しみ　同
寒の內の火鉢にひと妓箏哉　鳥堂
公園內に一軒の茶屋の寒の內　同
短袴をはいて寒の內　崖城
禪堂に居士もまぜりて寒の內　同
寒の內魚干す國の歪竿　虎耳
産屋窓雪降る朝や寒の內　同
華かな唄聞く樓や寒の內　靜軒
打寄りて句興に更けし寒の內　同
花嫁の人懷かしむ寒の內　讀人不知
商にしめば醋漬千切る寒の內　句平
荷揚人足石場冴ゆ河岸寒の內　同
寒の內溫突の火の消えてあり　雛川
寒の內北風荒ぶ寂れ町　同
南國の信抜きけり寒の內　黃丘
寒の內打込む鉄に火の散て　同
彼一語我一語の窓に寒雨す　我年
庫裡訪ふ寒日和を鶏走る　同
零下十度ヨボ寒がる寒の內　大塊

海鼠

鄕語海鼠に夜を長うして友と共　黃丘
寒暴風に海鼠凍つる岸にあり　同
海鼠曰く天下の人皆愚なり　雛川
我夜海鼠龍と化したる夢見し　同
鍵打ちて動くからまし海鼠哉　句平
よべの寄語組上の海鼠さとる朝　同
醉氣消しやくりて海鼠凍て　皐天
臺にもおへず箸しかね海鼠かな　讀人不知
雪を煮る横議の士より海鼠凍て　田柿
醉海鼠や俳家の氣焰聞く夕　靜軒
汝海鼠大往生に醉をせで　同
海鼠に一句もならぬ達磨殿　大塊
海風に番ひ海鼠が動き見ゆ　虎耳
海鼠居る石の欲き海士呼ぶ　同
煮〆讒き女房の世心海鼠哉　崖城
山門に酒も海鼠も嗚呼と云ふ　同
南天に雪見て海鼠酢く廚　鳥堂
釣瓶より瀉す水海鼠漂へる　同
什麼酢につけられて海鼠哉　九分
病む親に孝なりと云ふ海鼠寶　同
海鼠賣急がぬ顏の男かな　魚骨
海鼠の山顏出す伊勢惠比壽　同

京日詩壇

○豐島海戰圖　成田魯石

絶大偉績豐島戰、納之者誰筆入神、[illegible]

評曰　絶大偉績、寫來波瀾頓挫、縱自在、宛如猛將使艦、粗心人爭得至此

○豐島海戰圖　安永春雨

皇[illegible]

評曰　使讀者神飛肉動。雅具古諧之體

○寒夜不寢口占　成田魯石

[illegible]

評曰　情致淸峭

○同上　高田小芥

詩句推敲僅得安、欲貪一睡布團溫、[illegible]

評曰　閒華遊戲、使人破笑、

再示無佛居士　竹陰老衲

[illegible]

謝竹陰老漢垂敎　無佛陳人

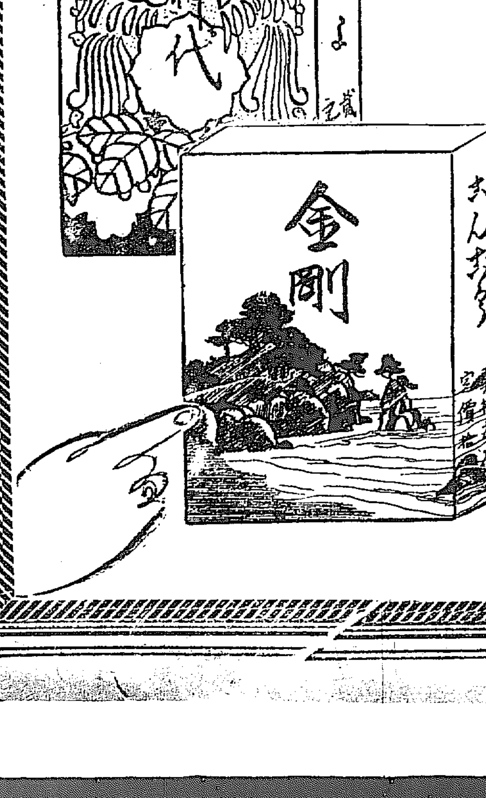
[illegible]

▲後場の商戰
[illegible]

平均値段　一節　二節　三節　四節
[illegible]

●手紙で番號　京畿道[illegible]郡松部面京町居兩班金貸業李潤勉　（二）は大正四年十一月八日二十一
[illegible]

愈々二大代表的新煙出づ

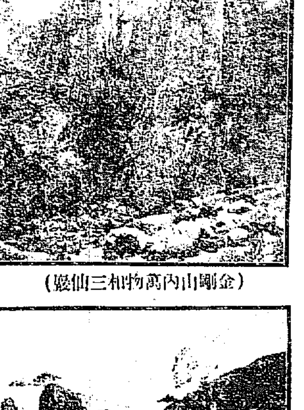


（金剛山內香爐峯）

世界的絶景としての名山は
先づ天下無二の
金剛山に見られよ

理想的良煙は
品質と芳薫に於て
御待ち兼の
新煙『金剛』『神代』に
見られよ

破天荒奇抜極まる景品を付したり是非一ボールを御買取ありて其の函の蓋裏に御注意ありたし


（金剛山內萬物相三仙巖）

（海金剛の一部）

京城　廣江商會

◎黒山國首府占領さる

維也納公報に曰く墺軍は黒山國首府セツチンエを占領したり（紐育電報）

◎敵船撃破

露都公報に曰く黒海に於ける露國水雷艇はアナトリアの海岸に於て敵の潜航艇一隻及び石炭船二隻を撃破せり（倫敦電報）

◎劉總長の廣東急行

北京海軍總長劉冠雄氏は或る重要なる任務を帯び十三日夜出發廣東に急行せり之れが任務は不明なるも察するところ龍濟光氏を訪ひて陸榮延と相通ずるを防止する爲めならんと（東京特電）

◎内閣會議

十五日午前十時より首相官邸に於て閣議を開き首相以下各大臣出席石井外相より支那帝政問題に就き報告を爲し特に露國軍需品供給に關し協議し次いで對議會策、勅令、人事等を審議し午後一時散會せり（東京特電）

◎春日出港

重大任務を帯び

或る重要任務に就くべく舊臘來舞鶴海軍工廠に於て臨時戰時費に依り大修理を施しつゝありし軍艦春日は二十二、三日頃出港に決し糧食飲料水等の搭載を了せり同艦の任務に就きては不明なるも常磐、千歳の兩艦とは行動を異にするもの如く第三艦隊第六戰隊と同じく本月末根據地佐世保を發し南下すべしと（舞鶴發電）

◎高島子爵へ勅使

故樞密顧問官高島鞆之助子の葬儀は十五日執行に就き畏き邊にては十五日午前十時勅使として落合侍從を同邸へ差遣せられ左記の通り御下賜相成りたり（東京特電）

一金五千圓　祭粢料
一紅白絹　二匹

◎大藏官吏更迭

櫻井專賣局長官辭表提出の結果十五日左の如く交迭あり同時に大藏省に左の異動ありたり（東京特電）

任專賣局長官（一等）　横濱稅關長從四位勳三等　嘉納德三郎
依願免本官　專賣局長官　櫻井鐵太郎
任横濱稅關長（二等）　大藏書記官兼參事官臨時關稅調查局事務官　西野元
免本官專任參事官　大藏書記官兼參事官　小野義一
免本官專任書記官　主稅局事務官兼大藏書記官　藤井眞臣
任大藏書記官　大藏省參事官　黑田英雄

◎北京より

◎長春在郷軍人會　滿鐵倶樂部にては十五日午後一時より在郷軍人會に對し御大典の際に恩賜の菊桐の御菓子下賜相成りたるに就き特別名譽任郷將校各會員共二十餘名正會員百六十餘名集合會長野戸歩兵大尉の勅諭朗讀及び精神的講話ありて後立食の饗應あり甚だ盛大なりき（長春特電）

◎商品陳列場開場　十五日午前十一時より滿鐵長春商品陳列場の開場式を擧行す主賓合せて約二百名式後立食の饗應あり午後四時散會せり（長春特電）

雜報

◎獨紙日支獨論

上海に於て發行の獨逸機關紙『戰爭』は極東に於ける日支獨の關係に關し左の如き評論を試みたり

歐洲の戰爭が始まつたとき英國は日英同盟條約を楯として俺まで日本を利用せんとする意圖を有してゐた、けれども獨逸は日獨の親善と日本の武士道とに信賴し純然たる歐洲の問題に對して日本は我不關焉の態度を採るであらうと思つてゐた、若し獨逸は勿論極東における活動を戰爭區域外であると宣言したならば日本の態度をして日英同盟の約に照し何等優しきものなきやうさせる筈であつた處が不幸にして日本政府は獨逸に對して獨逸の承諾すべからざる條件を提出したから遂に日獨兩國干戈を交ふるの止むなきに至つたのであつたけれども獨逸は青島陷落後日本が獨逸の俘虜および惡意なき獨逸商人に對し文明的にして而も親切なる待遇を與へつゝあるため大に日本を德としてゐるのである。

▲頃日惡戯者があつて獨逸が日支兩國を乖離せしむべく肝膽を碎いてゐるとの誤報を流布するものがあるけれども右は全く根も葉もなき捏造說で獨逸は常に兩國政府に對して敬意を拂ひ兩國の關係については公平無私非干涉の態度を持してゐる、元來東洋に於いて何等武力の後援なき獨逸が何事をかなさんと欲しても出來得べきものでない、また獨逸は支那を最も能く了解してゐるものは日本で、日本を最もよく了解してゐるものは支那であり即ち兩國の相互間の解決に委するを以て最も賢なる方法であるといふことを知つてゐる、獨逸が

▲日支兩國を不和ならしむべく企むしたなどいふ風說は畢竟在支那英國人等が獨逸商人並に日本商人の活躍によりてその商權を奪はるを恐れ何等かの手段によりて之を阻止せんとする策略に外ならぬ云々

◎白狼態度如何

時に活躍せんとせる白狼は河南巡按使より三年間暴擧を企ざる條件附にて四十萬兩を以て買收せられ目下河南省舞陽縣の山寨に立籠り幾多の美姫を擁し悠々其日を送り居れるものなりと此白狼にして遙かに雲南と呼應して起ち往年彼れが官軍の精鋭八萬に一泡吹かしたる態度に出でなば中支那一帶は再び其馬蹄に蹂躙されべきも彼は何ほ被買收條件を無視せず形勢を觀望し沈靜し居れるなり然し彼れ白狼の部下にて四天王とも稱すべき王世懋等は革命黨と結ぶの有利にして後世名利を得る基となし頻りに白狼を動かすに努め居れば今後彼れの態度如何に變ずべきやは注意するの價値あるべしと（北京）

◎朝鮮統治の事績

チーローランド博士の報告

過般朝鮮傳道教會聯合會に派遣せられたる札幌在留米國神學博士ジー、エム、ローランド氏は五日より東京に開催したる在日本傳道教會聯合會年會に於て朝鮮に關する主要なる報告を爲せり其の大要左の如し

▲一年間の大進展　朝鮮に於ける一般の進歩は一度其地を踏む者をして瞠若たらしむるものあり、五年前予が京城に著せしときは苦力の擔げる輿の出迎を受けたるも昨年九月同地に赴きしときは一輛の自働車は疾驅して予を宿所に送り届けたり、鐵道、道路、學校、殖林、農事等總て前年目撃せし所より大に進歩せり、過般京城に開催せる共進會は即ち此進歩發達を廣く世人に知らしめ且つ之を祝賀する爲め開催せられたるものなり、京城は從來並に現在著々近代化し且美化しつゝあり聞く所に依れば小松氏は同市を以て極東第一の都會たらしめむとの欲望を有せりと云ふ、前年併合に對し極力反對せし人士すら今日は朝鮮人が從前の儘に放任せられたらむよりも大に幸福の地位に在ることを認容せり

▲總督政治と宗教　外國人宣教師と朝鮮に於ける任地との關係は日本の保護制度施行當時迄は日本に於ける同一の關係に比し極めて簡單なるものなりしが新政の施行と共に甚しく複雜なるものと化したり、是れ新政府は從來未知の新官吏を以て組織せられ此等官吏は政治及び宗教に關し從來朝鮮末期の見識を有し且つ末期の新國語を用ゐる者なるが爲にして之に依り十年、二十年乃至三十年來朝鮮に在留せる歐洲人宣教師の地位をして最も處し難きものたらしめたり、されば幸にして官吏及び宣教師の双方に於いて其の形勢の尋常ならざることを認め双互意思の疏通を圖るに全力を盡し官吏の側殊に高級の官吏に於ては宣教師等の目的を是認し個人的交際上親和を保ち手段を說明するに迅速にして且つ宣教師側は順應し彼等自身は勿論朝鮮人たる同胞をして政府に忠實ならしむるに努めたり如斯にして日本人官吏と歐洲人宣教師との意思の疏通及び個人的交情の增進を見るは喜ぶ可きことなりとす

▲布教規則の目的　在朝鮮傳道教會聯合會の會合間近に發布せられたる新布教規則は或方面に於ては大に懸念不安の原因となり之に依り帝國憲法の許せる充分なる宗教の自由も朝鮮人民には拒絕せらるゝに非ざるかと憂慮せられしが實際に於ては該規則は官憲が日本内地に於て親しく知れる處の規定と其内容大差なきものにして該聯合會の委員兩名が總督府の宇佐美氏と會見し充分に自由に打ち解けたる談合の末該規則は何等宗教の自由を拘束するものにあらずして只政府は宗教の宣傳に關する一切の報告を絕えず保持せんことを求むるものに外ならざること[illegible]

▲學校規則と布教　大正四年三月二十四日改正の私立學校規則は私立學校に於て一般教育を施し又は宗教上の儀式を行ふことを得ざる旨を規定せり、尤も同年四月以前に設立せられたる私立學校は大正十四年三月卅一日まで此規則に據らざることを得、此規則の主として[illegible]なる點は新に私立學校を設立する場合は聖書に關する學科及び地理を教科中に加ふることを得ざる旨を規定せるにあり、されど此場合にても校舍より異りたる建物に於て且つ學校授業時間外に於て聖書を教へ又は宗教上の儀式を行ふことは之を許さるゝものなるが故に各私立學校は來る十年間に於て其設備を全うするを得策とす可し

◎先づ充分に調査せよ

日露貿易に對する所見＝實業家の努力

農商工部長官　石塚英藏氏談

日露貿易と一口に云つても漠然として如何なるものが需要であり如何なる物を供給し得るかと云ふ問題になれば却々深甚な調査を要することゝ思ふ、これ迄此間の調査を行つた者には三井物產の箕輪氏あり又は滿鐵會社の川上理事の如き露西亞通あり絕えず日露協會邊の報告となりて發表されたこともあり此外實際に當つた者としては大倉組が朝鮮牛輸出を企て原勝一氏を介して兩三回浦港と取引を行つたこともあるが露貨留の交換意の如くならざると關稅其他露國の法規を知ること頗る不充分であつた爲めに今日では中止の已むなきに至つた樣である總督府としても曩に果物の需要狀態を調査した外には具體的の調査をしたとはない

▲調査は頗る困難　日露貿易の必要なことは敢て今日の如く兩國間の國交が親善を加へたために今更めいて喧しく云ふのではなく從來前陳の通り多くの議論家又は實際家に依りて其の必要を叫び急務を說かれて居たのであるが何れも歸する所は今後尙ほ一層の調査を要すと云ふことになつて居つた樣に思ふ何故にさうであつたかと云へば要するに露西亞との商取引に關する法規を調べたり需給の實狀を知悉したりすることが頗る困難事であるからであらう現に昨年末の如く俄かに輸入關稅が重くなつて從來朝鮮から無稅で浦港に輸入して居つた粉が原價位の稅金を徵せらるゝ樣になり其他の物も大抵重稅を課せらるゝことになるなどの大打擊が起る

▲官廳よりも民間　それだからして日露貿易は必要だ、目下の急務だと云ふ樣な一種の聲に動かされて取引でも開かうものなら飛んでもない失敗を招くことになる故に必要だ急務だと空論はしても然らば何が必要で何が適當かといふ實際問題になれば曰く今後大に調査を要すと云ふことになるより外ないのである此調査にしても領事館や大使館等に付て調査して見つた位では到底當業者が實地に付て調査したもののやうに適切には參らぬ其れだから調査は宜しく商業會議所か若くは實業者の有志が親しく實狀を調査するに如かずであると思ふ兎に角今日は日露貿易を促進する上に於て絕好の機會であるから此機を逸せず當業者の指針となる程の調査を爲さんことを希望する露西亞は今尙ほ農業國であるからして從來農產品外のものは全部獨逸に仰いで居たのであるが戰亂と共に斷絕したから此機に於て日本が露國を顧客とすることは遠大の希望があると思ふ

◎朝鮮の教育と教育心得（二）

内務部長官　宇佐美勝夫氏談

▲智育獎勵の本旨　第二條は智育に關する條項なり、國民は如何なる階級の人たるを問はず決して一身一家を[illegible]

▲體育獎勵の所以　第三條は體育に關する條項なり、健全なる精神は健全なる身體に宿ることは千古の格言にして身體は人世活動の根抵を成すものなり、世上凡百の事業は一として强健なる體力を必要とせざるものなく國家の富强繁榮も國民の努力奮闘に俟たざるべからず、若し夫れ身體孱弱にならんか隨つて其の精神も亦柔弱に陷りて困苦缺乏に堪へ敢て猛然決行するの勇なきを以て、事に當り其の本分を完うすること能はず、隨つて百事成らざるべし、此の如くにして何んぞ能く帝國の臣民として國運の發展に貢獻するを得ん内地人にありては移住後日尙ほ淺く未だ朝鮮の氣候風土に順應せざるものあるべく、隨つて其の子弟の教育につきては特に體育に力を注ぎ以て氣候風土の異變に對し十分なる抵抗力を有せしむる樣注意するを要す、世上往々思慮此に及ばずして徒らに智識技能の注入に走り爲に文弱の弊に陷れる結果其の學業を卒へて世に立たんとするに當り既に體力衰耗し意氣銷沈して何等の用を爲さざるが如きもの無しとせず、是れ本條に於て特に强健なる身體を育成すべきことを明示せられたる所以なり、

▲教育の三大要綱　忠孝を本として德性を涵養すること實用を旨として知識技能を教授すること强健なる身體を育成することの三箇條は德育智育體育の三育に亘れる大綱なり、此の三大綱にして教養上徹底せられんか、帝國民として其の德操に於て其の智能に於て將た其の體力に於て聊も遺憾無きを得べく、始めて帝國教育の大本たる忠良の臣民を育成し得たりと云ふべし、故に苟も教育に從事する者は官公私立學校を通じて其の初等教育たると高等教育たると專門教育たるとを論ぜず常に此の三大綱を念頭に置き其の實現を期せんが爲に全力を擧げて其の方案を講究し、之を實行せんことを要す、而して其の之を實現する所以につきては教育の任に當るものゝ慎重なる講究と熟練なる努力とに俟つべきは論なしと雖も、次に示す所の九項は特に注意すべきものなり

人事消息

▲メユール氏（英國領事）十五日夜入京朝鮮ホテルへ投宿
▲レーン氏（米國實業家）同上
▲小川吉郎氏（湖南農工銀行谷川支店長）十五日入京龍山旅館へ投宿

◎大阪より

▲露國信管引受　富山縣高岡製鐵所にては今回露國大砲用信管十餘萬個の製造引受をなしたり來る三月迄に製造に着手すと

▲兩港貿易比較　我國三大貿易港として横濱大阪神戸の三港相鼎立せるが其中大阪は他の二港に遙かに及ばず横濱神戸の二港に前者は輸出港として後者は輸入港として各特色を有するも從來其總額に於て横濱は常に上位を占めたるが一昨年來反對の結果を示し神戸は却て横濱を凌駕することゝなれり即ち大正三年度に於ては其總額に於て神戸は横濱より約一千萬圓を超過し同四年度に於ては二千二百萬圓を超過せり今昨年度に於ける兩港の輸出入額を比較すれば左の如し

	神戸（萬圓）	横濱（萬圓）
輸出	一九、七〇〇	三〇、四〇〇
輸入	二六、九〇〇	一四、四〇〇
合計	四六、六〇〇	四四、四〇〇

右に示せる神戸港の輸出入額は直接神戸稅關の手續を經たるものなるが大阪稅關の手を經て輸出入せるもの少なからず即ち其額大正四年一月より十一月までの統計に依る時は輸出額三千四百萬圓輸入額二千二百萬圓合計五千六百萬圓を數ふるを以て結局昨年度に於ける横濱に對する神戸の超過數は七千八百萬圓となる勘定なり（大阪支局）

◎北京より（續）

▲皇室裁判[illegible]

▲御前會議規則　[illegible]人調査員二十人か[illegible]資格の制限（三）位次の排列及び與職者就席の順節（四）發言の次第（五）職[illegible]公布せられず從つて正式に開會するに至らざるが目下欽派委員及び秘書[illegible]んとの見地より法制並修飾を組織すべく決議せり該館は政事堂及び各部[illegible]混合を以て組織せらるべしと[illegible]

推戴心の眞偽並に各省内の安危如何を確めたること既報の如くなるが之れに對して徐州の振動、開封の擾亂[illegible]て選くするを得たるものに係る他省文武將吏に至つては皆一心擁戴して萬其煽惑を受くるに至らず縱ひ三五の亂黨あり暗に事を起さんも而かも[illegible]決して重大なる變故の發生するに至らず臣敢て完全の責任を負はんと願はくは我皇上即ち大位に登り以て人心を定め早日大典を擧行し[illegible]員、警務處長、審判廳長、道尹等の奉天省大官全體は聯名して君位一日居らざれば天下一日定らず[illegible]

本社電話番號
當分の間構内接續電話を廢し凡て局直通電話にて左の通り御呼出被下度候
編輯用　局三四五番　一二一四番
營業用　長三二六番　六六〇番
發送用　二六一六番

京日案内

◎普通　一回前金三十錢（無割引）壹名一回每に金五錢增

◎古本　買入誠實　御報參上　京城本町一丁目（明治町筋）野村書店　電話二六三六番へ　252

▲タイプライター確實（保險附）修繕　京城南大門通三　ツヅキ自轉車商會　電話二三一〇番　240

◎〇自働自轉車　格安品あり　京城南大門通三　ツヅキ自轉車商會　電話二三一〇番　239

◎新調一號金市賣拂　今般新調せる[illegible]渡し御希望者御來談乞ふ　○京城若草町一〇六番　非出　245

◎番外　一回前金六十錢（無割引）壹名一回每に金五錢增

◎婦女家庭内職　簡易上品　輸出品編物です希望者へは材料無料貸與す初心者にても相當の收入あり　◎堅志洞九八　電八四五　▲編物傳習所　255

◎下女入用　年齡十五歲位身元確實なる者を要す家族少數にて見習同樣に雇入度し希望の者は至急申込あれ　◎姓名在社　253

開業　質及金貸　秘密確守し返金の誠意有方に對しては特に低利御相談に應ず　京城永樂町一丁目商品陳列館前横入　秦質店　150

◎恩給　年金退隱料扶助料　當分法定利子以內にて立替地方者便法有　即時無手數契約　京城永樂町一丁目四四商品陳列館前　江州屋本店　219

恩給年金類立替　京城武橋町二十三番地　京城日報社北右に入　電話二二八三番　國江商會　225

◎温泉　御保養旁御入湯に是非一度御出下さい諸病にきき手輕な料理樣勉强致します　漢江通練兵場前（電話三二二番）◎龍山温泉　228

▲靴　御小留大勉强並に修理　堅牢優美且價格大廉價　寸法用法御一報次第進呈　目錄定價表　京城壽町廿　電話七〇九　エビス屋靴店　231

◎はねつぎ（うちみくじき）等　一切の治療御依賴に應ず　明治町　柔術道場　241

◎御雛人形　今般主人儀御雛人形仕入の爲各內地流行の風俗優雅なる商品精研究各位樣の御好に投度[illegible]謹告候　○京城本町一　岩田北陸堂　248

皮膚病　花柳病　專門　須古醫院　京城永樂町一商品陳列館坂の上　電話二一〇二番　243

電燈　値下げ　卸小賣　東京中川懷中電燈　本品の優秀是非一度他品と御試あれ　定價表無代進呈　振替京城一二一九　京城黃金町　電二九一八　川合時計店　197

玄米乳　○滋養豐富殊に牛乳嫌の人に適す　東京化學研究所指定專賣　京城北米倉町　玄米製乳所　電話一五四七番　213

◎質　南海質店　完全なる倉庫の設備あり　京城吉野町一丁目（南海湯下降）　191

滿蒙處分論　露國クロパトキン將軍原著　日本大井包高譯述　定價金一圓　郵稅本社負擔　京城日報代理部　振替貯金京城三〇〇

商業登記公告

主人株式會社朝鮮商業銀行支配人池田庄五郎ハ大正五年壹月拾日其ノ住所ヲ京城府南山町貳丁目參拾九番地ニ移轉シタリ
右大正五年壹月拾貳日登記

東亞煙草株式會社取締役佐々熊太郎、藤田虎之助、江富廉藏、杉山孝平ハ大正四年拾貳月一八各任期滿了ノ處拾貳月拾九日重任シ且左記ノ者取締役ニ當選同日就任シタリ
東京市下谷區仲御徒町四丁目貳拾壹番地　川村桃吾
右大正五年壹月拾參日登記

內國通運株式會社ハ大正五年壹月拾日全州大正町貳丁目ノ支店ヲ全羅北道全州郡全州面商砂町參百貳拾四番地ニ移轉シタリ
右大正五年壹月拾四日登記

妻ノ登記　妻ノ氏名　任所京城府漢江通八番地　人妻小川小梅　營業ノ種類雜貨並ニ菓物商　營業所京城府漢江通八番地
右大正五年壹月拾五日登記

京城地方法院

新刊書御案内

書名	著者	定價
英獨佛と植民地	高桑駒吉	一、四〇
家庭と學生	大町桂月	三五
普通教育に於ける法制の綱領及教授	中島虎信	六〇
福澤諭吉	田中王堂	一、二〇
長篇講談赤穗義士	如燕	三〇
詩傳乃木大將	兒玉花外	八〇
我が青年及青年團	山崎延吉	七五
通俗電氣工學講義	土保五郎	一、五〇
獨逸皇帝大野心論	樋口麗陽	八五
縮刷宇宙	三宅雄二郎	一、五〇
英文和譯軌範	山口鐵太	八〇
日本藥草採取栽培及利用法		一、一〇
蘇峰文選	德富蘇峰	特二、五〇　三、〇〇 送料
芭蕉句集講義（冬）	角田竹冷	三八
悲しき思ひ出	岩下小葉	四〇
名人大家詰將棋妙手選	小野五平校	三八
實例豫防諸貸金回收の秘訣	花井著	九〇
家長原簿	特製	一、三〇
日記及語錄	清澤全集第三卷	一、〇〇
繪畫寶典		一、五〇
平和か鐵血か	五十名家論說	一、三〇
歐羅巴と東洋	高桑駒吉	一、三〇
三國同盟と露佛同盟附二國協商	同上	八〇

京城本町　電話二〇八六番　振替京城二五三　大阪屋號書店

模範　牛乳　純粹培養ヨーグルト　場主獸醫肥塚正太　京城蓮建町四　東亞牧場（電話五二番）

米國ビクター會社製　獸類捕獲器　壹個　壹圓五十錢　狐、狸、ヌクデ取器械

仁川濱町　京日仁川代理部

……のみの裁判に係る……院長は御前會議に……各人裁判官十人書記長一名書記四日（一）召集のときの手續（二）列席者

△法委員會　参政院議決の帝國憲法起草程序推選各委員は未た

△法制専修館　支那政府は新帝國樹立後に於ける現行の各項法制にして帝政と牴觸せるものを修正せ

……心の反覆頼み難きを見て親昵なる各省大官に特電を發して其袁總統……

……にも民上將軍は左の答電を發したり査するに演省の倡亂は少數亂徒の罪界萬下官長を勾結して逆謀始め

……境內の人心極めて安……布道は嚴密にして偵察は四出し陸防各軍皆篩るべし縱ひ匪黨の逆謀あるも亦必ずや立ろに撲滅す可し

右の外段將軍以下副都統、各師長、旅長、鎮守使、參謀長、廳長、交涉……たり（東京）

◉濱離宮の鴨御猟

露國太公殿下御感興深し

宮內省にては十五日午前十時より濱離宮に於て露國太公殿下の爲め鴨御猟を行はせられたり殿下には主獵官の案內にて鴨池に成らせられ掬網を以て鴨を捕獲する我國特殊の妙技を御覧せられたる後親しく掬網を執らせられ鴨數羽を捕獲相成り興がらせ給ひ午後一時御歸館あり同二時に古美術品御覧の爲め前田侯爵邸に成らせられたり（東京特電）

◉京城婦人會の新年會

餘興の義太夫の㵎題は『勇ましくて而も泣きたいやうな』とのお望み

京城婦人會の新年會は例年の恒例により十五日の第三土曜日午後二時から開催された

■會場は倭城臺の

婦人會建物、障子には暖か相な午後の日射がさし込んだ八疊と六疊敷の御座敷であつた、此の日のお客は何れも多年婦人會に盡力された有志の夫人ばかりで先づ床間の前餘興の

■義太夫見臺の側

には國分李王職事務官夫人が見え次いで實業家梶原夫人、釘本夫人、中村夫人、近藤夫人から佐々木龍山鐵道病院長夫人、村上李王職事務官夫人等の紋付羽織姿も見え又其のお向ひには多田、黒崎、青木、大和田、角永各夫人に山口、梶原兩令嬢もありそれに峰尾、京口、堀越夫人等の斡旋役もあつた、軈てお

■座敷が定まると

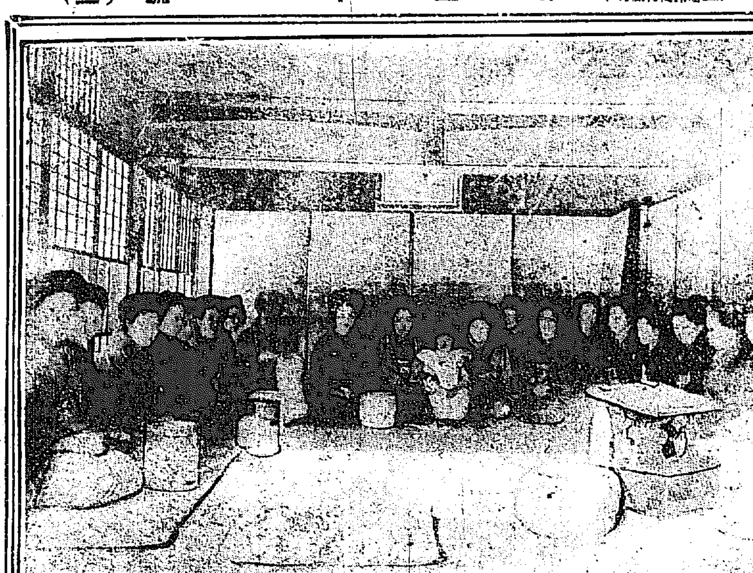
共に餘興としては桃割の梶原令嬢が巧みな筑前琵琶を彈奏され其の『橘中佐』の一曲はなかく（に美事なものであつた、次いで筑前琵琶が終ると今度は數年來の恒例により竹本奈良梅の義太夫が始まり先づ

■お客樣の御注文

に從ひ勇ましくて而も泣きたいやうな㵎題をといふので『逆櫓』一段芽出度く相濟みモ一つ所望とて『伊賀越』も一段試みられたがこれもなかく（の喝采であつた、猶ほ此の日の御馳走には有際に御婦人許りの集りとてお壽司に羊羹に金とんなどの甘いもの盡し

■熱いお蕎麥など

もオホヽヽヽの裡に大分好評判であつた、御馳走が終つてからは會員一同の樂しい歌留多なども試みられ斯くて午後五時過ぎ和氣靄然たる裡に散會となつた、猶ほ此の會は創立以來既に廿餘年星霜を閲しこれまで軍



京城婦人會の新年會

事に教育に衞生に慈善事業にあらゆる努力を惜まなかつた光輝ある歴史を有つて居る

◉一月場所取口評

東京大相撲今場所は珍らしくも豫定通り初日を開け殊に出羽海門下の新進がズラリ東方を占領して殆んど一手で他の部屋力士を引受けんとする概を示し從つて前景氣は近來に無き良好であつたサテ初日取組中朝潮と對馬洋の取組無かりしは最も遺憾であつたがそれでもまだ二三の呼物があつた中にも

△浦の濱と源氏山

の一組は角通の頗る注目を惹いた浦は一度び風雲を得て關脇にまで進んだがまだく（未成品の部に屬する力士で而かも其取口のキビく（した如何にも男らしき處に勝負を集め今場所は數枚陷落はしたもの丶尚ほ前途のある好力士である源氏は西の海の門下で新入幕の元氣者殊に實力は優に三役の貫祿を備へ未來の大關横綱と囑望せられて稽古場の強味は栃木や大錦に遜色の無い力士であるだけに恐らく當日第一の好取組であつたら果せる哉其取口は珍らしき大相撲であつた立上るや源氏は浦の吊りを嫌つて遮二無二突立つるを浦能く捌いて遂に左を差すや己れより大兵の源氏を片手吊りに寄り進んだ勇氣が實に浦の身上である土俵際に殘して投を打つたのは源氏が稽古の威德で浦は實に危ふかつたが運能く殘すと共に大膽にも敵の肯を捲いて強引に吊出して堂々の勝は浦の白面に朱を點じ殊勲として勝名乘りを受けた男振りが偲ばれる彼れの人氣は甚勇氣にある

△兩國に大蛇潟

は何れも秋田の産で二度の顔合せに一勝一敗正に今回が決戰で緣島の言分ぢやないが實に秋田一國の取り遣りである兩は陷落の汚名を雪がんと元氣日頃に倍し大蛇は數日前師匠で養父たる錦島に死なれて稍々意氣消沈稽古も又充分でなかつたそれでも彼れの實力は正に大關の格を備へ體格も近來又著しく發達したれば勝敗の數未だ何れとも判斷が出來ぬ仕切直し七八回にして立つや兩の出鼻を大蛇イナして叩いたのが抑々の失敗兩は泳ぎながら敵の足を取つて奇功を奏した初めから兩が足を狙つたのなら卑怯だが之れは死地に陷つて活路を開いたので當然の兵法であるそれにしても大蛇の如き機敏ならざる力士而も大力士の素質を有する男たるのが失敗の基であるが前場所には大錦をイナさんとして附け入られた失敗もある大蛇たるもの三省す可きである

△大鳴門に綾川

の一組も又好角家の血を湧かした好取組である鳴門は既に關脇大關にも進みたる可き好力士であつたが中途病氣の爲め挫折して一時は見込なしと迄に斷念せられしも前々場所より全く元氣を恢復し昔日の司天龍時代の俤を再現し綾川又殆んど元氣の絶頂で大關の地位を狙ひつゝある正に龍虎の爭ひである立上り樣鳴門得意の上突張りを連發したるも綾は巧みに捌く內鳴門機を見て右を差し綾が勝はこゝぞと金剛力に寄るを上背のある鳴門の事とて左に敵の上手を取つて廻り込み大きく上手投を打つて美事の勝を占めたり鳴門が綾の猛襲を受ながら上手を取つて廻り込みたるは彼れに餘裕の生じたる證據にて堂々たる大關力士の取口とも評す可き巧味のある處である

▲二日目勝負（十五日午後東京支局特電）

勝		負
國ケ岩	ひねり	立昇
千葉崎		駒泉
梅川		緋縅
朝緑		櫻川
紫雲龍		柏戸
一港		四國洋
常の花		渕藻川
寒玉子		近江富士
宇都宮		眞砂石
小常陸		八甲山
源氏山	よりたほし	大鳴門
浦の濱		大の川
黒瀬川		栃木山
綾川		稲の穗
石山	あびせたほし	對馬洋
玉手山	休	西の海
九州山	すくひなげ	鳳
〈中入後〉		
玉の川		小錦
玉椿	預	宮城山
鳴門洋		千年川
鶴渡		岩木山
兩國		上州山
大錦		金の花
大蛇潟		四海波
伊勢濱		釋迦嶽

右の內梅川に緋縅は梅立上り樣鋭く突掛け緋が左手をたぐつて四つに渡らんとするを突除け突出して梅の勝▲紅葉川に逆鉾は鉾立上るや紅葉の連射する鐵砲に鉾交はす間もなく土俵を飛出す▲寒玉子に近江富士は寒立上り樣部屋一流の上突張りを連發して突出す▲櫻川に朝緑は朝立上り櫻左手を敵の首に捲くやエイと打つた首投げ美事に極まる▲眞砂石に宇都宮は激しく突き合ひ宇都の足取り共に盛つて又突合ふ內宇都の引落し奇麗に極つて眞砂の負▲柏戸に紫雲龍は柏遮二無二突張るを紫雲捌いて殘しつゝ再三柏の右手を引掛け横から押さんとしたるも柏又殘して飽迄突張るを遮味に叩き込み紫雲の勝▲八甲山に小常陸は右筈適二無二押倒して小陸の勝

▲源氏山に大鳴門　當日の好取組なり源氏相變らず容易に立たず滿場の漫罵を浴びて漸く立上るや源氏素早く二本差しとなれば鳴門失敗つたりと慌て氣味に右上手を引かんと腰の延びる處を源氏隙さず一氣に寄倒しての勝は喝采▲浦の濱に大の川は大の川が例の通り突張らんとするを浦押へて左四つに渡るや互ひに右上手を引いて一息の後浦が吊らんとするを大のウンと堪へて反對に吊り進むを浦土俵際に打遣り軍扇も浦に上りしに東溜りより同體なりとの物言附きし爲め結局土俵だけ預り浦の勝と決せり

▲黒瀬川に栃木山　黒瀬注文を附けて素早く右を差せば栃木勝手惡しと左を割つて入れんとする處を黒瀬隙さず扱上ぐれば栃木反り身になつて殘しつゝ廻り込まんとするを追ひ詰めて持出し黒瀬の勝は大喝采▲稲の穗に綾川は左四つ稲喰下らんとするを綾起して強引に寄り進めば稲廻り込んとして踏み切る

▲石山に對馬洋　石飛込んで左を差せば對馬右手にそれを捲くなり小手投を打たんとする處を外掛けに浴せ倒して石の勝は大喝采▲玉手山に西の海は休み

▲九州山に鳳　初顔合せなり九立上り樣左を差して寄るを鳳例の通り右手に捲いて小手投を打ちしが利かず鳳の浮足となるを得たりと勢込んで寄り進めば鳳苦しまぎれに再び小手投を打つを九殘すと共に掬投を打つて美事に九州の勝は滿場の大喝采▲中入後玉の川に小錦は陷落同士の顔合せ玉敵の突張らんとする機先を制し右を差し更に左を入れて無雜作に寄切る▲玉椿に宮城山は一寸突合ひ玉左を差し喰下つて寄るを宮城土俵際に上手投を打つて同體に割れ軍扇は宮城に上りしも物言附いて預り▲千年川に鳴門洋は鳴門右を差し左前袋を引けば千年差手に敵の差手を捲いて押し出す鼻を美事に捲落し鳴門の勝は千年お株を奪はれ衰へたる哉▲上州山に兩國は立上る瞬間上州の右手を兩左手に捲いてぐるり廻りながらサツと打つたる小手投奇麗に極まり兩の勝

▲鶴渡に岩木山　岩木前日玉手を喰つて氣を良くし居る氣先きとて勢鋭く一突き突き掛け鶴の突返へす出鼻を叩かんとするを鶴心得て只一押しに押し切れば岩木の體は輕く土俵の外に飛ぶ▲大蛇潟に四海波は四海立上り樣双手に大蛇の腮を撓めて押さんとするを大蛇外づして左四つとなるや互ひに右上手を引いて一息吐くよと見る間に大蛇が打ちし強引の下手投げで四海コロリ▲金の花に大錦は金左を差して寄り切らんと進むを錦土俵際に殘しつゝ廻り込むや敵の差手を捲いて強引に持出して錦の勝▲伊勢の濱に釋迦ケ嶽は左四つ互に右上手を引いて釋迦上手投を打ちしが伊勢殘すや隙さず下手の引づり投氣味に寄り倒して伊勢の勝にて打出し

▲三日目の取組

緋縅	紅葉川
逆鉾	櫻川
近江富士	玉の川
宮城山	小錦
大の川	玉椿
鳴門洋	寒玉子
朝緑	土州山
釋迦嶽	鶴渡
四海波	大鳴門
兩國	千年川
栃木山	金の花
九州山	大蛇潟
綾川	伊勢濱
岩木山	鳳
宇都宮	柏戸
源氏山	八甲山
紫雲龍	稲の穗
小常陸	眞砂石
對馬洋	黒瀬川
西の海	浦の濱
大錦	石山

▲玉手山の休場　西方關脇玉手山は風邪の爲二日目より休場せり

◉十一萬圓

面長公金横領

慶尚北道管內面長の內にて昨大正四年度中に於て其の徵收保管に係る諸税金を横領消費したる者十八面犯罪面長十八名にて費消金額は十一萬九百圓餘に上り該消費金は各保證人にて辨償する事となり情狀により起訴せらるゝ者ありと

◉門司祇園町の血の雨

仲仕の大喧嘩

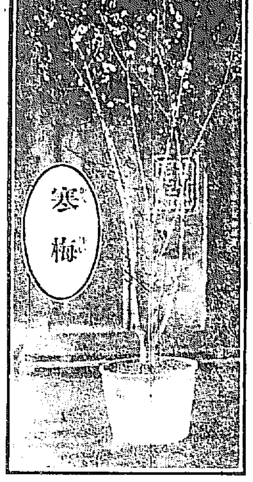
十五日午前二時頃門司市祇園町料理屋富貴樓にて石炭仲仕十數名大喧嘩の末凡物棍棒等を以て入れ亂れて爭鬪し其結果重輕傷者七名を出したり急報に依り警官馳つけ取鎭めたり

◉大豆買出の金で遊興す（門司特電）

鹿兒島縣姶良郡帖佐郷村生れ當時京畿道漣川郡漣川面金谷里居住新炭商村田龍太郎（三七）は十二月三日以來同面金谷里野村新助より大豆の買出しを依賴され十二月二十一日頃までに大豆の買出用に受取りたる金を以て京城に來り新町榮乃樓に四日間流連し四十餘圓を消費したる上敵娼に對し百餘圓の衣類を買ひ與へたり其他漣川郡に於て來より白米十五俵代の內四十圓を横領したることあり右につき本町署に引致せられ取調べの上檢事局へ送らる

◉虛榮女房の狂言自殺

忠南公州郡寺谷面桂室里慶劉昌烈は妻權順賢（二七）と共に京城に來り齋洞に居住し何か就職せんとせるも適當なる就職口もなきより其儘ブラく（と日を過し居れる所妻の權順賢は人並外れの虛榮心強き女と見え十五日午前二時頃夫と口論の結果狂言自殺を企て死ぬ死なせぬの闘着中を鍾路署の警官に說諭を加へられ一先づ落着したり原因は同女は夫が美服を買ひ與れざるより不平を鳴らし其結果口論に及びての所爲なりといふ



◉道件に殺さる

平南肅川郡通仙面牛商李應模（四〇）は去る四日中和郡樓邑の市場に於て四十圓にて牛一頭を賣却し其金を懐にして歸宅の途中話を仕掛けて道伴れとなりし一人の鮮人と連れ立ちて同郡化水洞にさしかゝりし時道連れの鮮人は不意に手頭の石を拾ひ上げて李の面部を毆打し人事不省に陷らしめて懐中しなる四十圓の金を強奪して姿を晦ましたり

御大典
大觀兵式之實況
大觀艦式之實況
特に本日晝間より差加へ謹寫す
大正館

◉五人組強盗

慶南密陽郡芽火山面富葉孫昌憲方へ去る四日午前三時頃五人組の強盗押入り三名は門外に立番を爲し二名の者は室內に闖入し主人孫を縛し小刀を突付けて脅し現金五十圓及び雜品數點を強奪し且孫を毆打し兩膝關節部に重傷を負はせて立去りしが賊は舊臘中より附近二三箇所に侵入して目的を遂げざりし者らしく密陽憲兵隊にては大捜索を開始せり

◉姉婿の宅から

住所不定無職其白斤萬（二三）は竊盜前科二犯の曲者なるが一月七日午前七時頃京城明治町一丁目支那人張某方に忍入り水烟竹（一個一圓五十錢）を竊取し尚ほ一月四日には永登浦なる姉の夫方より眞鍮鉢外三點を竊取し京城に來りたるを探知せられ鍾路署に引致さる

◉三歳書道會品評會

森雲耶山人門下生等の組織せる三歳書道會は十六日午後一時より黄金町貴族會館にて會員の新年揮毫品評會を開催するにて同好多數の參觀を希望すと

◉金田氏精神講話

十五日午後一時より京城本町署演武場に於て金田萬次郎氏の心理感應講話あり同署員初め鍾路署及び府廳よりも多數の聽講者ありたり

社員自宅電話開通
電話八三八番
松尾茂吉

○寒中の婦人衞生

冷症に對する婦人方の誤解

子供の出來ぬ理由と救治法

『隨分の水涕垂る、寒さ哉』愈々嚴寒の季節に入りましたので、元來男子に比して體質の繊弱なる婦人方は勞び此寒氣の爲に不測の疾病を誘起する事が尠くありません、況して先天的に水氣多く冷性に出來てる婦人方には、其危險の程度も一層甚しく平素は假令強壯な御方でありましても、大なり小なり必ず之が惡影響を受けて非常な禍を惹き起します、昔から

▲大寒には子供が出來

ぬと申し傳へて居りますのは、誠に爭はれぬ眞理であります、現に統計學者が出産屆に依り其の姙娠した月を調べて見ると、姙娠は春秋に多く夏冬に少く、殊に大寒は甚だ稀であると報告して居ります、又同じ動物例へば犬鷄等に、寒からず熱からず丁度適當な溫度に生活を取らしめると、劇寒劇熱に棲さしめるとに於て大なる差があり、寒卵を産むなどは甚だ異數なることだと動物學者が說明して居ります、又寒地に住む子無き人が、溫暖なる地方に移りて始めて姙娠したる例も澤山あります、之に反し暖地に居て屡々姙娠した人で個々寒地に移つたゝめ、更に姙娠せぬ樣になつた例も尠くありません、又海外諸國の例を見ても、寒帶熱帶は人間の繁殖少く、我國の如き溫帶地方はドン／＼進んで明治十年頃は三千萬に滿たぬ人口が今や五千萬を越えようとしてゐるではありませんか、是等の事實から考へても寒氣が如何に婦人の身體殊に子宮其他の生殖器に大害を及ぼし、恐る可き種々の婦人病の誘因となりますかは、實際想像以上に甚だしいのであります。

▲冷症と婦人病との關係

醫學者は冷える事即ち冷症と云ふ事が既に婦人病に犯されてゐる證據で、素人の所謂冷性とは概して病的症徵であると論じて居ります、併し之は餘りに極端なる學說でありまして、生理上一般に婦人方は男子よりも比較的冷性であります、されど之も程度のあることで、月經前後に腰部や手足に輕微の冷感を催し經血の止むと共に漸次平常に復する如きは、云ふ迄もなく生理的の冷性でありますが、之に反し一年中足腰が冷えたり、冬季殊に酷寒の候に入ると一倍に冷え、甚だしきは腰部の知覺神經が麻痺して氷の如く冷めたくなり夜分も碌々眠られぬなどは、最早疑ひもなく病的徵候で、子宮卵巢等の如き生殖器に異常のある證據であります、世には『妾は性來冷性で困ります』と其苦痛に堪へ兼ねて無暗に懐爐を用ひたり、度々入浴したりする人もありますが、之は大なる心得違ひで、之が爲に反動的に反て寒氣を強く受け不知不識の內に底冷して遂には取り返へしの附かぬ病原を作る事もあります、前述の如く斯樣に始終冷えますのは、既に子宮病血の道の前兆でありますから、幾ら外部から溫めた處で其原因を治さぬ內は何の效もありませぬ『泉源濁れり何ぞ河流の淸きを見んや』の道理であります、又

▲冷性の婦人は多く頭痛

持で、月經不順であるのも爭はれぬ事實でありますが、之等は一般婦人病者に見る本症の特徵であります。然かしかゝる微候が無いからとて無病健康であると誤解してはなりませぬ、何れにしても今は婦人方の最も警戒を要する一大危險期でありますから、平素少しでも冷症と自覺して居る方は勿論、苟しくも健康と子寶を望まるゝ婦人方は、轉ばぬ先に一時も早く「婦人病者の心得」を讀んで、適當なる養生法を講ずる事が肝要であります。

▲最安全な自宅療治

婦人病者の心得は産科婦人科の大家醫學士佐藤、西牧兩氏の共著になる唯一の家庭治療書でありまして、婦人病一切の原因、療法が詳細に記述してあります、殊に不姙病の救治法は學理と實際の兩方面から、素人にも直に實行せらるゝ樣解り易く說いてありますから、本記事を一覽したる人は本書を是非共一讀する必要があります、理由もわからず手當り次第に藥物を亂用するが如きは害あつて益なく、或は藥の中毒を惹き起す憂がないとも言へませぬ。婦人病者の心得は左記何れへでもハガキにて申込めば無代送呈致します。

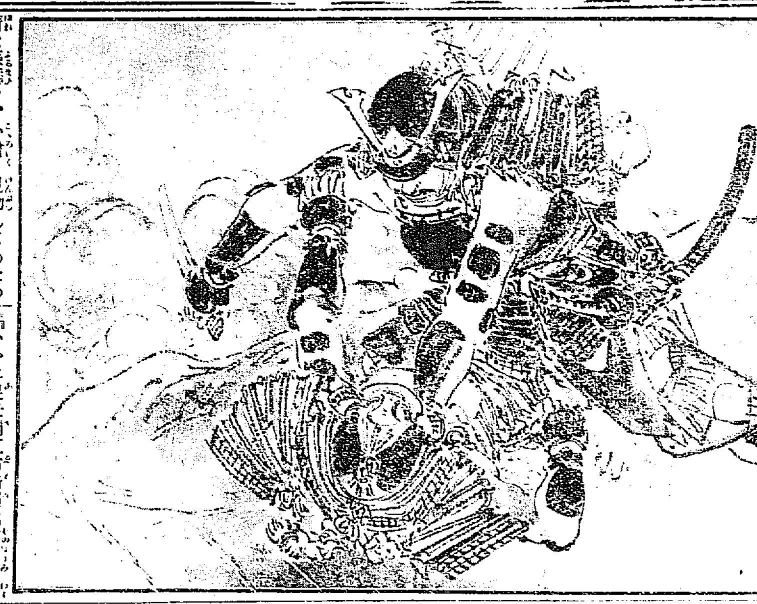
東京市京橋區新榮町四の一（電話京橋二三〇一番）
命の母本舗
笹岡省三藥房
大阪市東區淡路町一丁目（電話本局二三二五番）

千生瓢 (98)

須藤南翠作 筒井年峰畫

七本槍（三）

柴田三左衛門尉勝政を退き口に就かせて、徐ろに後に踏み止まり、追ひ縋る羽柴勢を支へながら、勇猛に戰ひて、霰霞の如く寄せ來る敵をば一丁にても二丁にても、擊ち退けた剛強の弓取があつた。彼が一たび踏み止まる時は、崩れ立つた北國勢も一旦必ず備へを立てゝ、盛返して逆へ戰ふこと、宛然糸を以つて操らるゝ如くに見えた。谷を隔てゝ此の天晴な振舞を、心憎く見物してゐたのは、秀吉が側小姓の一人、片桐助作且元（且元この時眞盛と名乘つたのであるが、且元の方深く人口に膾炙すれば、斯くは記す）であつた。陸の雲は折々月を呑吐して、且元は此の豪傑を見失ふのを殘念に思つた。且元は一旦心にかけたこの敵、決して人には渡さじと思ひ詰めて、其方を心ざして走る程に、今雲破れて吐き出した月光に透して見ると、彼の豪傑は坂尻、白木の森を過ぎて庭戸濱の高處に佇止み、突き立て、薙ぎ伏せ、打ち拂ふて、羽柴が軍兵谷に轉じ、崖を落され、うち惱まさるゝこと、一通りではなかつた。且元は急ぎに急いだ。



彼の豪傑、思ふまゝに敵を惱まして、今は結び來る敵なしと見たので悠然として其處を引き上げ、柴田三左衛門が手に一つにならんと、十歩ばかり歩む處に、片桐且元辛うじて驅け付けた。且元銀の柄螢の指物を建て、一文字に驅け寄つて、不圖見ると、夫が柴田、佐久間に左右の腕と恃まるゝ北國無二の英雄、足彦彌五右衛門であつたので、道理こそと首肯かれた。且元遂さず詰め寄つて

『いかに足彦彌五右衛門、其方見忘るゝ事はあるまい、筑前守が侍片桐助作が見參するわ。引つ返して勝負せよや』と呼はつた。

彌五右衛門きつと見返つて

『おゝ助作か、殊勝にもこの彌五右衛門をよく尾けたぞ。昔の欵みを思へば、見逃して遣りたいは山々ながら、其は私事、此は公事、不憫ながら首を貰ふぞ』と、莞爾笑つて立ち向つた。

且元も快よげにうち笑つた。

『欵信といふも、既に十餘年昔の事この助作が母は、彌五お主が伯母、お主と我とは肉親の從弟同志、親しうも言ひ交した間ではあつたが、故上御逝去の後は、お主と我とは主を異にし、お主は北國、我は中國に立ち別れて、音信不通となつた中ぢやよ』

『それ覺えて居る。取分其方が主の筑前と、我が主人匠作殿とは、事毎に意見合はず、遂に此度の一戰に及んだ上は、其方と我とは、敵味方ぢや。敵味方こゝに合うて、雌雄を決せぬ法はないわよ』

『言ふにや及ぶ。親子兄弟鎬を削るも武門の意地、從弟同志が何であらう。我は羽柴筑前守が家來、お主を討つて主人へ軍忠を抽でるわ』

『能う言ふた助作、彌五も北國方に於て名を知られた侍ぢや。手並は今ので見知つたら、いざ參れ助作』

『おゝ天晴の働き、逃腰立つた越前勢に比類なきお主だけに、其首級他人には渡されぬわ』

『えゝ、面倒な、一本參るぞ』と彌五右衛門は槍を扱いて繰り出す。

『心得たり』と且元は受け止める。

足彦が槍は、笹穗の素槍を白柄にして、十六角に削らせたのである。片桐の槍は中身にして、江州甘露の住人天九郎俊長の作である。双方ともに戰場名譽の槍を以て、人突もせず突き合ふ處は、孰れに優劣あるべうも見えず、半時餘り突き合ふた。

如何なる隙を見出してか、足彦が一聲『やッ』と叫んで、目にも止らず繰出す槍、石に當つてはつきと折れた足彦は忽ち太刀に手をかけ、身を潜まさんとする處を、且元得たりと突き伏せて、遂くも首を搔き取つた。

片桐助作は足彦彌五右衛門を、加藤孫六は淺井吉兵衛を、脇阪甚内は水野助兵衛を、平野權平は小原新七松村友十郎を、糟屋助右衛門は宿屋七右衛門を、福島市松は拜鄕五左衛門を、加藤虎之助は山路將監を討つて、壯士振群の勳功を奏した。これぞ世に志津ヶ嶽の七本槍と稱して、遠き代までも傳へられた。

また石川兵助は首こそ捨てたれ、正しく安井四郎五郎を討ち、伊木半七は大崎段右衛門を、櫻井左吉は宿屋次郎助を討ち取つて、同じく三振太刀の驍名を遺したのであつた。

入院隨意 京城南大門通三丁目（舊木村病院入る）
胃腸病院
院主 佐々木杏造
電話一六五九番

讀者の領分

近頃市中には煙突掃除を怠つて居るものが多く北米倉町邊を通ると煤の雨が降つて通行人の迷惑は甚しい（腰辨）▲市中に火事の多いのは朝鮮人側では溫突から邦人側では炬燵などである之等は少し注意して居れば間違の起らぬ筈だ（消防夫）▲近來市中に球突き屋が減つた樣なが京城の撞球界は近頃振はぬと見える（新米のキユー生）▲本町に鶴の味噌漬を賣つて居るが彼れは鶴の肉でせうか丹頂は無論取る事は出來なくなつて居るから其れとも何鶴の肉でせう（新渡鮮者）▲京城には一時何々聯組合と云ふものが澤山あつたが此頃は見えなくなつた何うも立ち行きませぬかね（資本家）▲例年の通り貴社の東京大相撲懸想賞は吾々好角家に取りては頗る面白い此の上もない樂みだ何時も斯う云ふ樣な事を仕て下さい（龍山の角力狂）▲掃除夫が吾輩の處の塵箱を取つて行つて持て來ないが塵箱迄持て行つては困る早く歸して貰ひたい（米倉町の住人）

商況

大阪三品

大阪期米特電（十四日）

五月限 二三四、九〇 二三五、〇〇
六月限 二三五、六〇 二三五、七〇

仁川米豆取引所

[illegible]に二十六錢を押し前手筋の引拔き買進みしより三十七錢を跳ねしも値惚れ賣に二十九錢と崩れて止めたり 七百石賣‥七百石買九百石買‥三千九百石 [illegible]

▲相場復活す 大阪電報は [illegible]

十五日の三勢限 後場（寄付）十七圓五十二錢 [illegible]

賣買取組高 一月限 二百石 二月限 七千四百五十石

▲廣告▼

京城學校組合告示第一號
京城學校組合區域内ニ居住スル内地人兒童ニシテ明治四十二年（己酉）四月二日ヨリ同四十三年（庚戌）四月一日マデニ出生シタル者ハ來ル四月一日ヲ以テ就學ノ始期ニ達スルニヨリ右學齡兒童保護者ハ所定ノ入學書ニ戸籍謄本若ハ抄本ヲ添ヘ來ル二月十九日限リ京城學校組合又ハ京城府龍山出張所ニ提出スヘシ
大正五年一月十日
朝鮮總督府府尹 金谷充

消化と毒けし 仁丹

活用
お雛祭ふ時仁丹……食滯せず
芝居見物の時仁丹……頗る爽快
新年宴會の時仁丹……惡醉せず
カルタ會の時仁丹……元氣横溢

藥價 拾錢 廿五錢 五拾錢

▲仁丹飲んで年中爽快にお暮しあれ!!

金言
氣に入らぬ風もあろうに柳かな ……（盧門）

撞球界の泰斗 玉乃一熊著
菊判上製三百餘頁 總クロース美裝函入

撞球指南

定價壹圓五拾錢 〔郵税本社負擔〕

著者玉乃氏は球界の泰斗にして苟も球界の爲に貢獻するを多大なるは、苟もキユウーを手にする者にして之を知らざるものなき所也。我國斯技の今日の如く發達せるは、實に氏の賜といふべし。而して今日斯界に有名なる田村、鈴木、友石等の一流の諸選手、皆氏の教を受けざる者なし。就中數年來歐米各國を往來して世界的大選手の稱號を爭ひつゝある彼の山田浩二氏（本書には山田氏の序文あり）の如き、最も永く玉乃氏の薰陶を受けたる一人なり。而して山田氏のマツセーが、現時世界第一と稱せらるゝ所以のもの、氏の奮て玉乃氏に就き斯技の蘊奥を究めしに因らずんばあらず。歐米選手多しと雖も、學理と實地とを兼備し、人に教ふる妙を得たるもの蓋し玉乃氏の右に出づる者なかるべし。氏今本書に於て斯技の二十年來研究せる撞球の理論と方法に就て細大漏す所なし。本書は初學者を導く懇切叮嚀、而して推理論斷、實に斯技の楷梯なり。斯技の祕訣を披瀝せる、亦實に選手に對する指南車たり。初學者は之によりて斯技の速成を期すべく、後學者は之によりて十年難解の疑團を氷解すべきなり。實に是れ球界空前の大名著なり。

大取次所 京城大平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

●新荷著アンクル式片側懷中時計

機械堅牢示針正確登録意匠然も實用的にして價格の低廉なる天下無比

十九形	銀側	一圓九十錢
十八形	ニツケル側	二圓[illegible]十錢
十三形半	同（機械裝飾）	三圓九十錢
十九形	同（兩蓋）	[illegible]
十七形	同	[illegible]
十九形	銀側	[illegible]
十八形	金鍍金彫刻兩蓋	[illegible]
十六形	ニツケル側時計	[illegible]
十二形	同 ラヂユーム付	[illegible]
十二形半	同	[illegible]
十二形	銀側	[illegible]
十一形	鐵側鎖付	[illegible]
十九形	金パリ（十年保險）	[illegible]
十八形	同	[illegible]
十八形	同	[illegible]
十二形	銀側	[illegible]
十六形	十八金	[illegible]
十九形	同	[illegible]

右は今回弊著の商品にて本商會に限り之が有るのみならず店に無き所のもの伏して御注文を待つ 地方商店の御注文は [illegible] 郵便にて御送附申上候

時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒、各國貨直輸入商
イングレッソレー商會
京城本町二丁目 電話九七二番

瀬戸皮膚科醫院
旭町二丁目（舊三丁目）
醫學士 瀬戸潔
診察夜九時まで
（電話二四九八番）

日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行 相模丸 一月廿八日 正午出帆
背島丸 二月四日 正午出帆
淡路丸 一月十九日 正午出帆
仁川海岸町一丁目 電話十一番 堀回漕部

麗水丸 晋州丸（各港經由木浦行） 一月十八日 仁川發
錦江丸 南陽丸（江華島、槐亭島、海州行） 毎日午前 仁川發
平安丸（佐賀、大黒山、木浦、門司、若松行） 一月十四日 群山發 一月十八日 若松發
江原丸（芝罘、大連、營口行） 一月十六日 仁川發
金州丸（海州鎮南浦經由德洞又は白翎島行） 一月廿五日 仁川發
公州丸（各港經由濟州島行（東廻）） 一月十八日 木浦發
公州丸（南多島海列島行（月二回）） 一月廿一日 木浦發
慶興丸（各港經由濟州島行（西廻）） 一月十六日 木浦發
順天丸（各港經由麗水行 麗水より麗山行に接續） 三日目毎 木浦發
統營丸 海州丸 巨濟丸 慶寶丸（各港經由麗水行（三日目一回木浦行）） 毎日 釜山發
三浦丸（長承浦、統水、司丈嶋、麗州方各港） 一月廿一日 釜山發
江陵丸 襄陽丸（長生浦、方魚津各港） 毎日 （釜山浦項）發
竈德丸（甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行） 一月廿二日 釜山發
永興丸（北久味、五與浦行 又は長崎延長） 毎月廿八回 元山發
平壤丸 忠清丸（城津、清津、浦鹽行復航雄基鬱陵島經由門司） 一月 日 元山發
鏡城丸 昌平丸 咸城丸 初鳳丸（元山より各港經由雄基行） 一月廿四日 二月一日 一月十八日 一月廿二日 元山發
全羅丸 京畿丸 黃海丸 咸鏡丸（釜山より蘭川各港寄港雄基間のこと） 一月廿三日 二月一日 一月廿七日 一月十七日 釜山發

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行 神丸 一月 日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 神丸 一月 日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 小倉丸 一月 日後五時出
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸 一月 日後十時出
○元山、西湖、新浦、城津、清津行 第三琴平丸 一月 日後九時出
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 一月 日後六時出
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 大興丸 毎月二日九日十六日廿三日 午後十時出帆
釜山本町埠頭 大池回漕部

共同汽船仁川出帆

阿波共同汽船株式會社
共同丸 芝罘、大連行 一月十六日後二時入 一月十八日前九時出
第一成鶴丸 城津、清津、浦鹽行（元山出帆） 月 日後九時出港
第三金剛丸（元山出帆） 西湖津沿岸各港を經て雄基行 月 日前八時出帆
阿波國共同汽船株式會社 本町一丁目（電話一〇八番）
仁川代理店 山下回漕部
元山代理店 田口回漕部
京城取次店 南大門通（電話二六八、二〇一七） 河村運送店

大阪商船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、長崎行（▲は巖原寄港） 溫州丸 一月廿三日 午後五時出帆
天智丸 一月廿六日 午後出帆
汕頭丸 一月 日
○大連直行 ×安東丸 一月廿一日 午後二時出帆 ×城津丸 一月廿八日 午後出帆
◎大阪直行 天佑丸 一月十八日 後五時出
○群山、釜山、横濱行 △臺東丸 一月十九日 午後四時出帆 △潮州丸 一月廿七日
○大連直行 △潮州丸 一月廿三日 正午出帆
○滿洲、浦潮行（元山出帆）（▲は城津西湖津に寄港、△釜山不寄港） ▲臺北丸 一月廿六日 ▲大智丸 一月十九日 午後二時出帆
○上海、基隆、打狗行（大連出帆） 新高丸 一月十八日 午前四時出帆 安平丸 一月廿六日
御注意
仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二二番 二二〇番 五五〇番
京城切符發賣所 内國通運會社支店 電話七八〇番

朝鮮郵船 出帆

京城南大門驛前 京城商客取次店 松原運送店

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸 一月 日後四時出帆
大有丸 一月 日後四時出帆
神代丸 一月十九日後四時出帆
蛟龍丸 一月十六日後四時出帆
君が代丸 一月 日後四時出帆
仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部